国際交流センター・国際部

2021 年度　成果報告書

目次

Ⅰ．グローバルパートナーシップ形成

海外訪問 …… 3
海外からのご来訪 …… 3
OB ネットワーク …… 3
国際交流協定の締結 …… 4
その他の活動 …… 4

Ⅱ．学生交流

海外への学生派遣
1. 交換留学 …… 7
2. 海外研修プログラム …… 7
3. 海外留学のフォローアップ …… 9

海外からの学生受入
1. 交換留学 …… 15
2. 日本語・日本文化短期プログラム …… 15

A^3I：アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム（通称：A^3I） …… 16

Ⅲ．日本語教育・留学生サポート事業

日本語教育
1. 日本語 Intensive コース …… 21
2. 日本語補講 …… 25
3. 日本語・日本事情教育 …… 29

留学生サポート
1. 留学生支援・相談、文化交流 …… 34
2. 山梨留学生就職促進プログラム（通称：IRCS） …… 38
3. その他の活動 …… 51

Ⅳ．国際化教育

G-フィロス
1. G-フィロス（グローバル共創学習室）と英語学習・留学サポート …… 54
2. イベント・活動紹介 …… 58

Ⅴ．地域貢献

留学生の地域との交流 …… 66
小・中・高等学校への留学生派遣 …… 66

Ⅵ．国際交流関連データ …… 67

国際交流センター長挨拶

茅　暁陽（まお　しゃおやん）
国際交流センター長・国際部長

本報告書では、第 3 期中期目標・中期計画に掲げる本学のグローバル化に関する目標達成に向けて、国際交流センターと国際部のスタッフが一丸となって取り組んできた一年間の活動内容を、Ⅰ.グローバルパートナーシップ形成、Ⅱ.学生交流、Ⅲ.日本語教育・留学生サポート事業、Ⅳ.国際化教育、Ⅴ.地域貢献、Ⅵ.国際交流関連データの 6 つのパートに分けて紹介しています。

2021 年度も引き続き、新型コロナウイルスに振り回された 1 年でした。デルタ株やオミクロン株の出現により感染拡大の波が相次ぎ到来し、緊急事態宣言は 4 月から 9 月の約半年間続きました。これにより、海外との往来をはじめ、国際での旅行、イベント、会食など、私たちの生活は大きく制限されました。

本学においても、授業のオンライン化により学生は大学に来る機会が減り、例年行っている実地見学旅行や地域交流行事も 2 年続けての中止を余儀なくされました。留学生の中には、入学のため仕事を辞めたが、日本に来ることができないために奨学金が受給できず、生活に困窮する学生もあり、留学生後援会から生活支援給付金を支給して支援を行いました。また、教科書代を立て替えて日本で購入し、現地に送付する支援も行いました。この状況下において、秋に一時再開された外国人の入国の機会には、複雑かつ流動的な水際対策が行われる中、国際部スタッフの努力により、予定していた留学生 12 名を無事に入国させ、また年明けの入国規制緩和でも速やかに手続し、44 名の留学生を入国させることができました。

海外への派遣も引き続き中止を余儀なくされ､代替として語学･文化オンラインプログラムを､ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）、レスター大学（英国）、ノーザン・アイオワ大学（米国）及び杭州電子科技大学（中国）の 4 大学と連携して開催しました。特に今年度は、レスター大学に医学生向けのプログラムを新設し、医療現場の様々なシチュエーションで使用する医療英語を学んだり、英国の健康問題について学んだりする機会を提供しました。オンライン留学には、費用、ビザ等の手続き、渡航先の治安などの面においてメリットもありますが、やはり、実際に異文化に身を置くことができない、時差の関係から多くが平日の夜間に時間を作る必要があるなどの課題もあります。それでも、参加した学生さんへのインタビューやアンケートからは、オンライン研修プログラムに対する満足度は高く、特に英語学習や現地に渡航して異文化体験に参加するモチベーションの向上につながったことが分かりました。

2021 年度は、前年度に採択された文部科学省の委託事業「留学生就職促進プログラム」をベースとした教育プログラムが「留学生就職促進教育プログラム」として認定を受けることができました。また、新たに大学の世界展開力強化事業に本学と杭州電子科技大学（中国）、釜慶大学校（韓国）及びペルリス大学（マレーシア）の 4 大学でコンソーシアムを形成して実施する「A^3I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム」が採択されました。これにより、学生の交流を更に活発にするとともに、大学全体の国際化の推進を目指します。

これまでの取組により、本学の外国人留学生数は 2021 年 5 月 1 日現在で 239 名に達しました。これは第 2 期中期目標・中期計画期間の末である 2015 年度の 170 人から 40%の増となります。このように大きな成果を上げることができたのも、学長及び国際交流担当理事の強力なリーダーシップのもと、国際交流センター及び国際部国際企画課のスタッフ全員が協働で献身的に対応してくださったこと、及び各学域や附属教育研究施設の多くの皆様から多大なご支援とご協力をいただいてきたことの賜であると考えております。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

最後になりますが、9 月 26 日に国際企画課の横森健治氏が 55 歳の若さで急逝されました。横森さんは、国際経験が非常の豊富で、留学生の面倒見も良く、多くの留学生から父親のように慕われていました。改めてご冥福をお祈りするとともに、留学生支援に力を注ぎ続けることを誓いたいと思います。

I. グローバルパートナーシップ形成

本学の特色あるさまざまな研究分野を通して、新たな海外大学との交流が広がりつつあります。国際交流センター・国際部では、新たな協定締結や海外からの訪問者受け入れを通して、山梨大学の更なるグローバル化に向けて、グローバルパートナーシップの形成を推進しています。

海外訪問

学長・教職員の協定校等訪問

例年、海外の交流協定校や、新たな協定締結の可能性があるその他の教育機関等を、学長、国際交流センター長および関係する教職員が訪問し、グローバルパートナーシップの強化・拡大に努めています。しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、協定校等への訪問はありませんでした。

海外からのご来訪

海外の大学からのご来訪

例年、交流協定校から、学生交流のプログラム担当教職員が本学を訪れ、さらなるプロモーションに向けた打ち合わせや本学学生へのプログラム説明会などが行われています。また、協定校以外にも本学の特色ある研究に興味を持つ海外の教育機関は多く、今後の協定締結に向けての訪問等があります。しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、海外から本学への来訪者はありませんでした。

OBネットワーク

国際交流センターでは、本学を卒業・修了した留学生とのネットワーク形成に向け、留学生同窓会の整備を進めています。

すでに同窓会に登録している卒業・修了生に対しては、山梨大学とのつながりを継続してもらえるよう、大学広報誌である『Vine』電子版や、年末年始の挨拶状をＥメールで送信するとともに、国際交流センターウェブサイトにも、Ｅメールと同様の内容で卒業・修了生へのメッセージを掲載するなどしています。このような海外在住の本学出身留学生とのネットワークを、本学の広報活動、海外での優秀な留学生の獲得に活用したいと考えています。

同窓生宛グリーティングカード

大学刊行物　電子版 https://www.yamanashi.ac.jp/about/281

国際交流センターウェブサイト https://www.ciee.yamanashi.ac.jp/

国際交流協定の締結

2021 年度には、2 件の大学間交流協定を締結しました。

1 件目は、既に協定を締結していた国立陽明大学と国立交通大学が合併し、国立陽明交通大学となったことから、今後のさらなる交流促進のため 2021 年 6 月 7 日付けで、改めて大学間交流協定を締結したものです。

2 件目は、大学の世界展開力強化事業の採択を受け、杭州電子科技大学（中国）、マレーシアペルリス大学（マレーシア）とともに、各種プログラム等を通じて大学間の交流をさらに活発化させるため、2022 年 3 月 15 日付で釜慶大学校（韓国）と大学間交流協定を締結しました。

その他の活動

進学説明会実施・参加及び留学フェアへの参加

国際交流センター・国際部では、優秀な留学生をリクルートするため、毎年国内外のフェアへの参加や日本語学校、海外の大学を訪問することを通して広報活動を行っています。

2021 年度は、6 件の進学説明会又は留学フェアにて、本学の教育、研究上の特色、甲府市の住環境等に関する最新の情報を紹介し、地方の大学で学ぶメリットなど山梨大学の魅力をアピールしました。

（1）VYSA SCHOOL FAIR 2021（ベトナム留学フェア）：令和 3 年 9 月 5 日（日）

VYSA(在日ベトナム学生青年協会)主催のベトナム留学フェアにオンラインにて参加しました。日本国内から 70 名（38%）、現地ベトナムから 115 名（62%）の計 185 名の学生が本学や本学の所在地である山梨県や甲府市についての説明を熱心に聞いていました。

（2）日本留学フェア（サブサハラ・アフリカ）：令和 3 年 9 月 10 日（金）

文部科学省日本留学海外拠点連携推進事業の一環として開催されたオンライン「日本留学フェア」に参加しました。ケニア、エチオピアなどからの参加者を対象に本学の説明を行いました。

（3）2021 年度 JCL 外国語学院進学希望者説明会：令和 3 年 7 月 27 日（火）

JCL 外国語学院主催の進学説明会にオンラインにて参加しました。本学教職員 2 名が、4 回（9:30－10:00 5 名、10:15－10:45 5 名、11:00－11:30 5 名、11:45－12:15　5 名）に分け、計 20 名の学生に向け説明を行いました。

（4）令和 3 年度山梨大学オンライン進学説明会（R4 年度学部進学者向け）：令和 3 年 8 月 4 日（水）

本学主催の進学説明会をオンライン形式で実施しました。本学教職員 3 名が、計 9 名の学生に向け説明を行いました。

（５）2021 年度 JCLI 日本語学校進学希望者説明会：令和 3 年 8 月 6 日（金）

JCLI 日本語学校主催の進学説明会にオンラインにて参加しました。本学教職員 2 名が、学部希望者、大学院希望者向けに分け 2 回の説明を行いました。合計 13 名（①10：45-11:25 学部希望者 8 名②11：40-12:20 大学院希望者 5 名）の学生が参加しました。

（６）ユニタス日本語学校進学説明会：令和 3 年 10 月 15 日（金）

ユニタス日本語学校甲府校を訪問し、進学説明会を開催しました。教職員 2 名が赴き、2 部に分け（11 時 30 分～13 時と 13 時～14 時 30 分）計 10 名の学生に向け説明を行いました。

II. 学生交流

さまざまな分野で国際的な視野を持って活躍する人材を育成するため、日本人学生の海外派遣や、各国留学生との交流事業に力を入れています。日本人学生の海外留学や海外インターンシップへの関心は年々高まっており、派遣人数も増加傾向にあります。
また、海外派遣だけでなく、留学生受入数のさらなる増加を目指し、学生訪問団の受け入れや、在籍する留学生のサポート事業にも力を注いでいます。

海外への学生派遣

１．交換留学

新型コロナウイルス感染症の影響により、交換留学（派遣）事業は行いませんでした。

２．海外研修プログラム

例年、本学のプログラムとして、交換留学のほか、夏季・春季休暇中に語学・文化研修と、語学・文化研修に企業や学校、地方自治体でのジョブ・シャドイング（インターンシップ）が加わった海外研修を行っていますが、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、現地に渡航しての研修を実施することができなかったため、オンラインにて語学・文化研修を行いました。オンラインプログラムに参加し、継続的に国際交流と英語学習ができるよう、「山梨大学海外留学応援プログラム事業」にてプログラム参加費用の支援を行いました。

（1）オンライン夏季海外研修プログラム

協定校である英国のレスター大学、及び米国のノーザン・アイオワ大学の計２大学が実施するオンラインプログラムに参加しました。レスター大学のプログラムでは、通常実施している英語・英国文化プログラム（EBCP:English and British Culture Programme）に加え、今回初めて、医学生向けプログラム（English for Medics International Summer Programme）も実施しました。

プログラムポスター

① 英国　レスター大学　オンライン英語・文化研修

日程：2021 年 8 月 2 日（月）～8 月 20 日（金）（日本時間）

本プログラムは、山梨大学が交流協定を締結している英国イングランド中部レスター市にある University of Leicester（レスター大学）の English Language Teaching Unit（ELTU）が実施するオンラインプログラムで、本プログラムには１名の学生が参加しました。

このプログラムでは、英語力とコミュニケーションスキルの向上を目的とした学習のほか、スコーン作り等の英国文化紹介や現地学生に折り紙を教える等のソーシャルイベントも含まれています。

② 英国　レスター大学　医学系学生向けオンラインプログラム

日程：2021 年 8 月 2 日（月）～8 月 20 日（金）（日本時間）

University of Leicester（レスター大学）の English Language Teaching Unit（ELTU)が実施する医学生向けのオンラインプログラムで、本プログラムには 6 名の学生が参加しました。

このプログラムは、医学系英語に特化しており、医療現場の様々なシチュエーション（患者・医師との会話、身体検査、診断・治療等）で使い得る医療英語を学びます。また、英国の健康問題について学んだり、現地学生と交流する機会も設けられています。

③ 米国　ノーザン・アイオワ大学　英語・文化研修

日程：2021 年 8 月 24 日（火）～9 月 17 日（金）（日本時間）

本プログラムは、山梨大学国際交流センターが交流協定を締結している米国アイオワ州シーダーフォールズにある University of Northern Iowa（ノーザン・アイオワ大学）の The Culture and Intensive English Program（CIEP)におけるオンラインプログラムで、本プログラムには 10 名の学生が参加しました。

このプログラムでは、リスニング・スピーキング・リーディング力を集中的に磨くことが出来ます。また、授業時間外には現地学生との会話時間（Conversation Hour／Conversation Partner）も設けられており、現地学生と交流することもできます。

（2）オンライン春季海外研修プログラム

春季には、英国のレスター大学、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学イングリッシュ・ランゲージ・インスティテュート、及び中国の杭州電子科技大学の計 3 大学が実施するオンラインプログラムに参加しました。

プログラムポスター

① 英国　レスター大学　オンライン英語・文化研修

日程：2022 年 2 月 7 日（月）～2 月 25 日（金）（日本時間）

本プログラムは、山梨大学が交流協定を締結している英国イングランド中部レスター市にある University of Leicester（レスター大学）の English Language Teaching Unit（ELTU)が実施するオンラインプログラムで、本プログラムには 1 名の学生が参加しました。

このプログラムでは、英語力とコミュニケーションスキルの向上を目的とした学習のほか、スコーン作り等の英国文化紹介や現地学生に折り紙を教える等のソーシャルイベントも含まれており、参加学生からは、「現地の大学生と交流する機会があったことが貴重だった」「イギリスの文化に関する知識を深めることができて、とても楽しいプログラムだった」といった感想が寄せられました。

② カナダ　ブリティッシュ・コロンビア大学　オンライン英語・文化研修

日程：2022 年 2 月 22 日（火）～3 月 17 日（木）（日本時間）

本プログラムは、山梨大学国際交流センターが交流協定を締結しているカナダブリティッシュ・コロンビア州にある The University of British Columbia（ブリティッシュ・コロンビア大学）の English Language Institute(ELI)で開講される「English for the Global Citizen」というコースのオンラインプログラムで、本プログラムには 1 名の学生が参加しました。

このプログラムは、現代社会の課題について、ディスカッションをする機会が多く、近年の国際的課題を、スピーキング力を養いながら学ぶことができます。

③ 中国　杭州電子科技大学

日程：2022 年 2 月 22 日（火）～2 月 28 日（月）（日本時間）

本プログラムでは、山梨大学が交流協定を締結している中国浙江省杭州市にある杭州電子科技大学において 7 日間の無料オンライン中国語・中国文化研修プログラムで、本プログラムには、7 名の学生が参加しました。

このプログラムは中国語の学習経験がない学生も参加可能としており、杭州電子科技大学学生やその他各国からの参加学生との交流や文化体験などのイベントを通して、異文化コミュニケーションを体得します。

３．海外留学のフォローアップ

本学のプログラムで留学する学生に対しては、交換留学及び海外研修プログラム共に、事前指導や帰国報告会などのフォローアップを行っています。以下に、これらの取り組みについて報告します。

英語・文化オンラインプログラム参加学生に対するアンケート

海外研修プログラムに参加する学生を対象に、留学前・留学後のアンケート調査を行っています。異文化交流や語学学習を通じて学生にどのような変化があるのかを測ると同時に、参加者の声を聞くことによって、次年度以降の海外研修プログラムの充実を図っています。

本報告書では、春季・夏季プログラムのうち各 1 プログラムから、参加学生に対し実施したアンケート結果を紹介します。

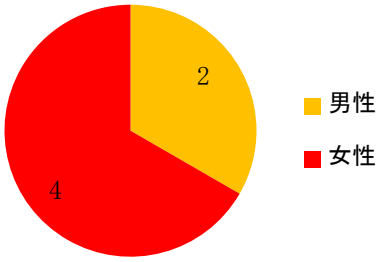
①2021 年度夏季　英国　レスター大学英語・文化オンラインプログラム

②2021 年度春季　中国　杭州電子科技大学文化オンラインプログラム

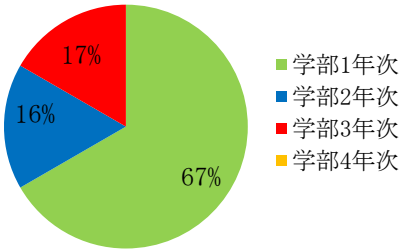
①2021 年度夏季　英国　レスター大学医学系英語・文化オンラインプログラム

＜回答者内訳＞

参加者内訳

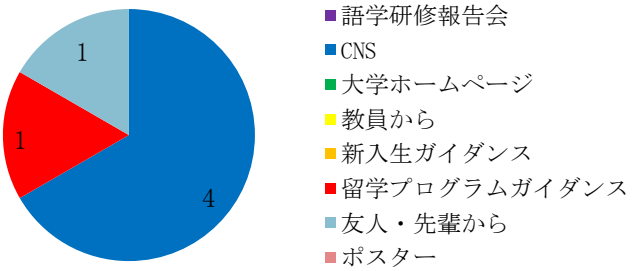


参加者学年

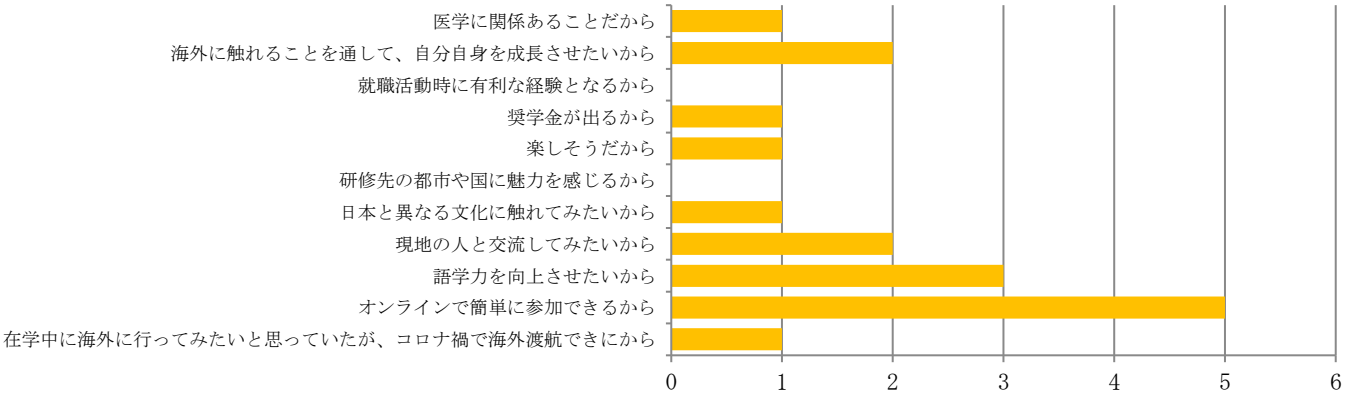


＜各項目回答＞

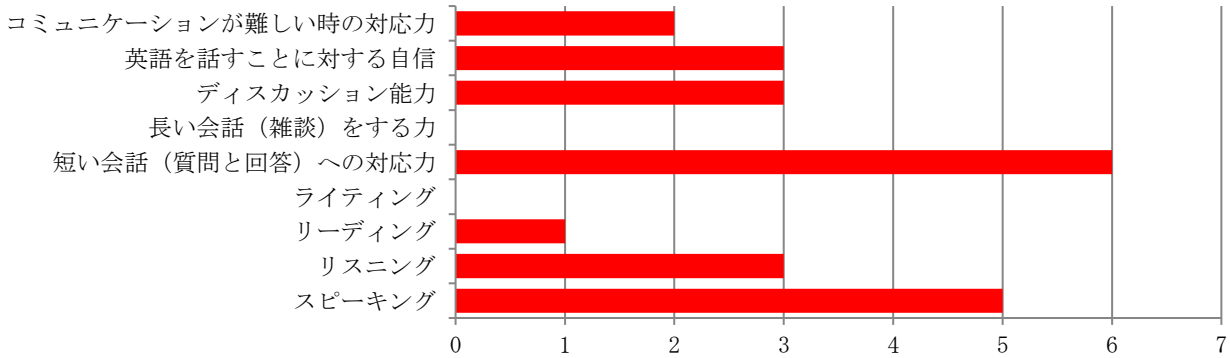
この語学研修を何で知りましたか？



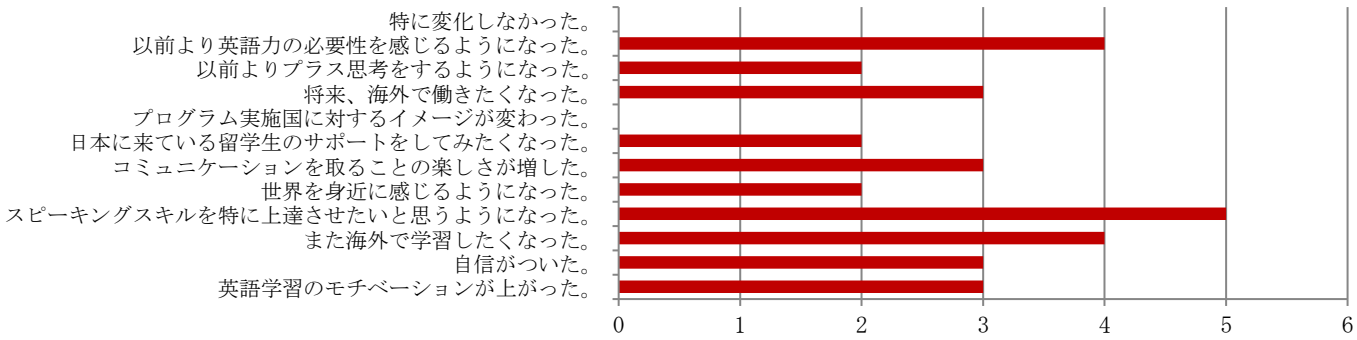
なぜ本研修に参加しようと思いましたか
（複数回答可）。



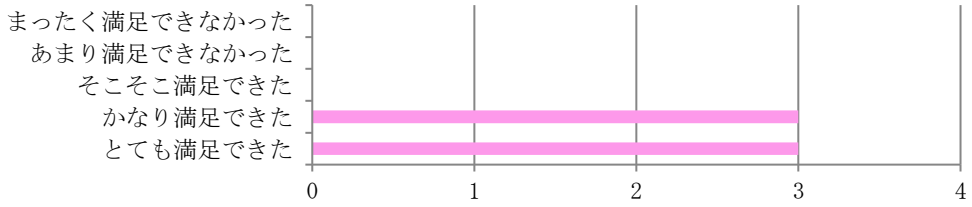
この研修で英語力の中のどのようなスキルが特に上達したと思いますか？
（複数回答可）



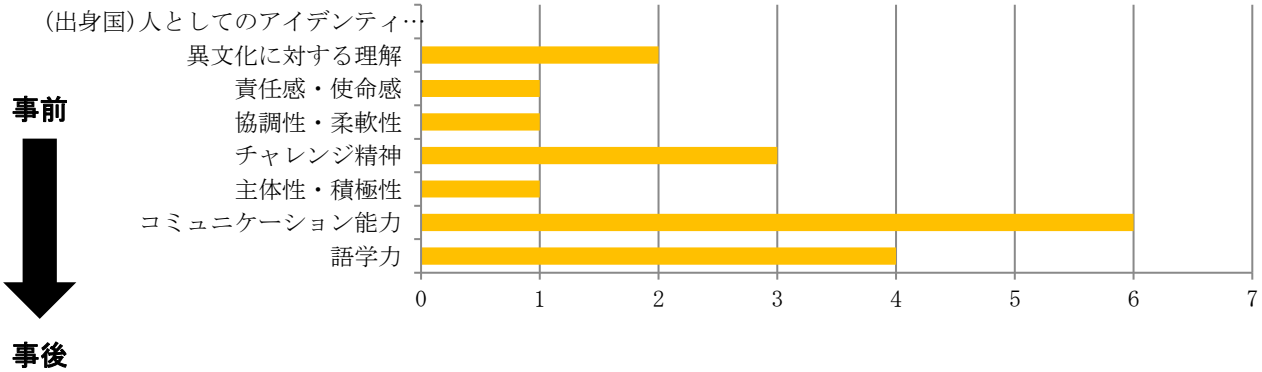
この研修によって、あなた自身は何か変化しましたか？（複数回答可）



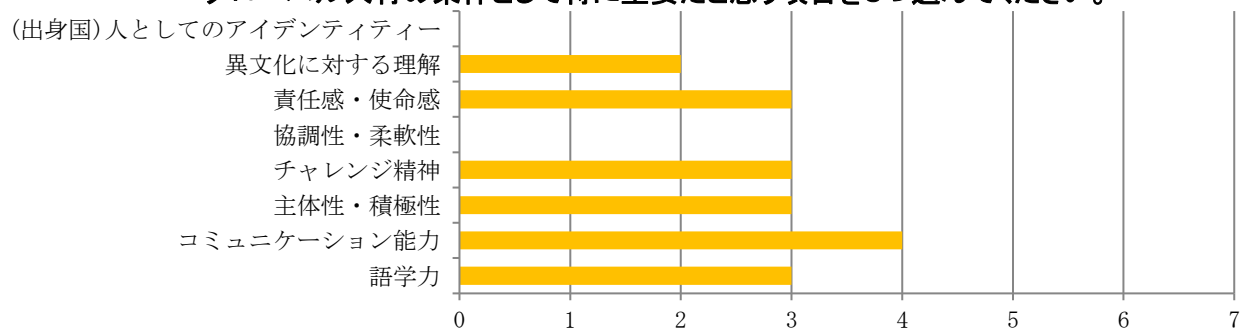
研修プログラムは満足できましたか？



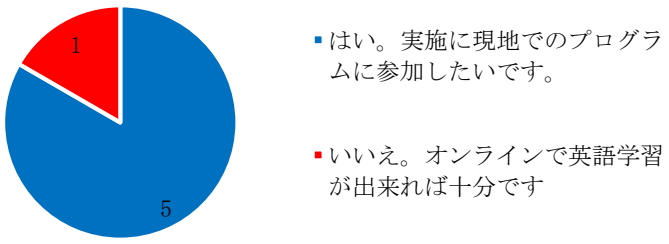
グローバル人材の条件として特に重要だと思う項目を３つ選んでください。



グローバル人材の条件として特に重要だと思う項目を3つ選んでください。



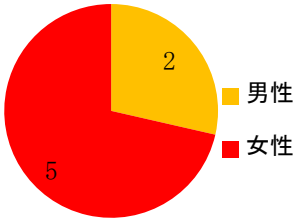
海外に渡航できる状況となったら、
現地でのプログラムに参加したいですか。



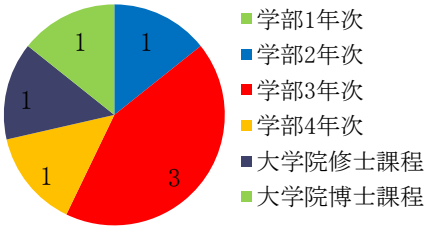
②2021 年度春季　中国　杭州電子科技大学文化オンラインプログラム

＜回答者内訳＞

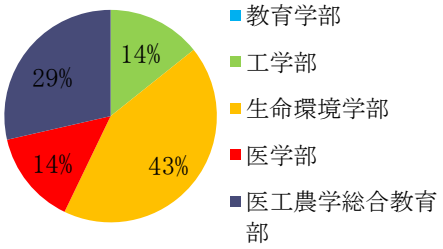
参加者内訳



参加者学年

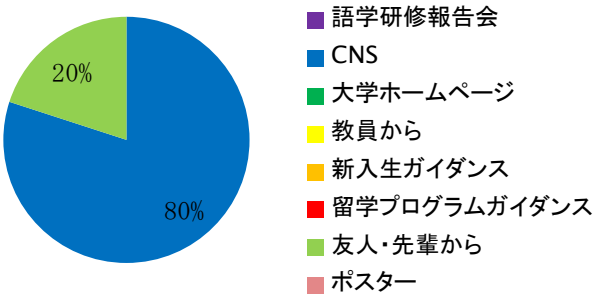


参加者所属学部

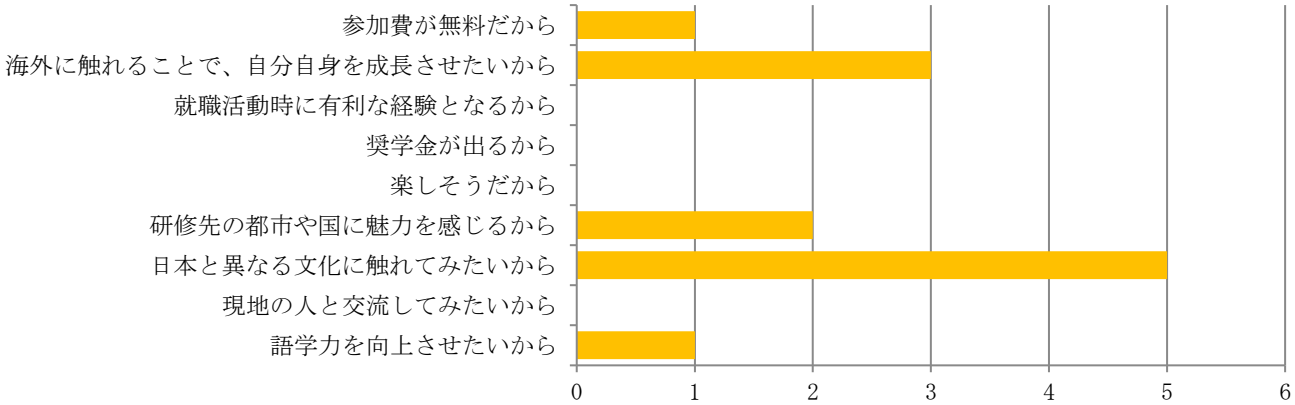


＜各項目回答＞

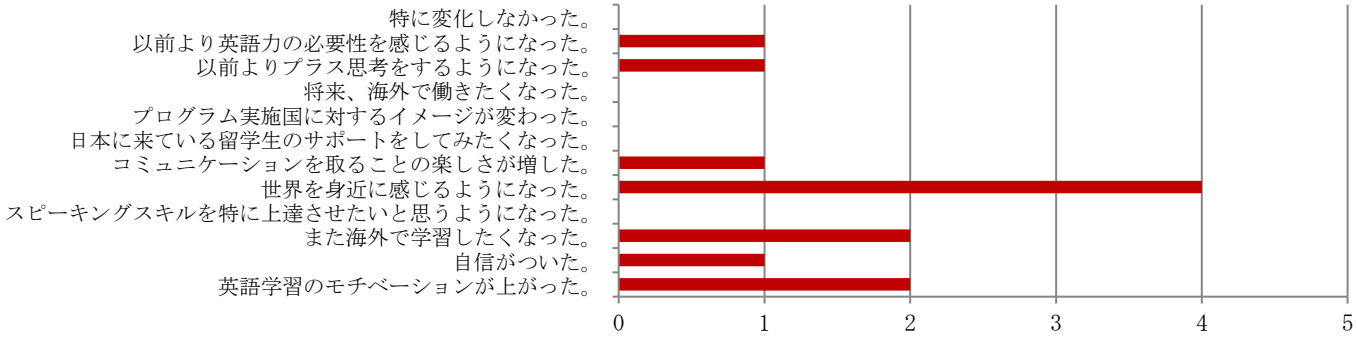
この語学研修を何で知りましたか？



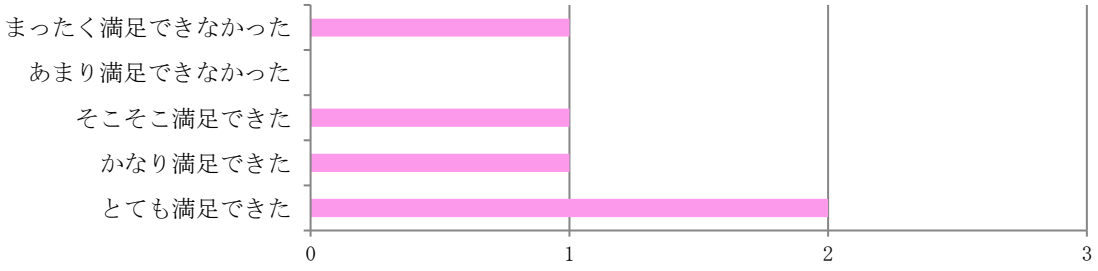
なぜ本研修に参加しようと思いましたか
（複数回答可）。



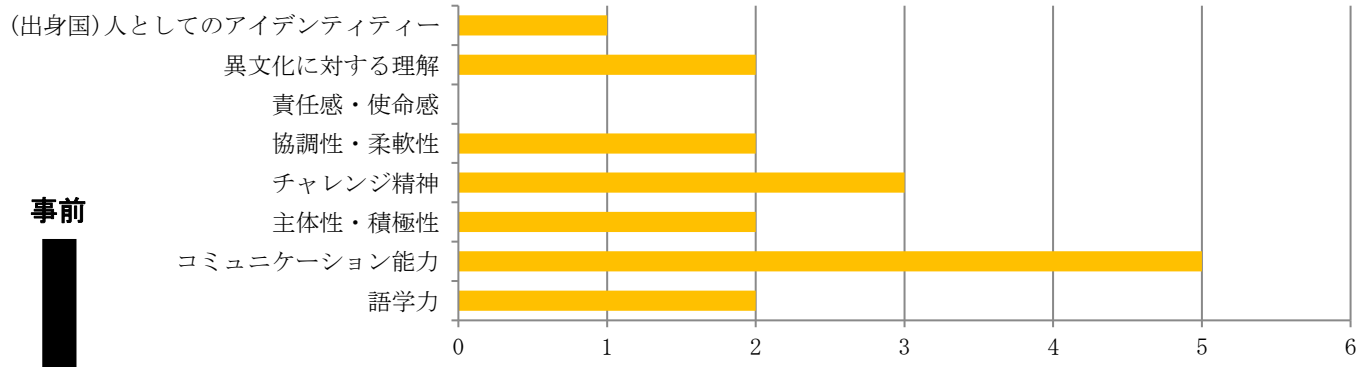
この研修によって、あなた自身は何か変化しましたか？（複数回答可）



研修プログラムは満足できましたか？



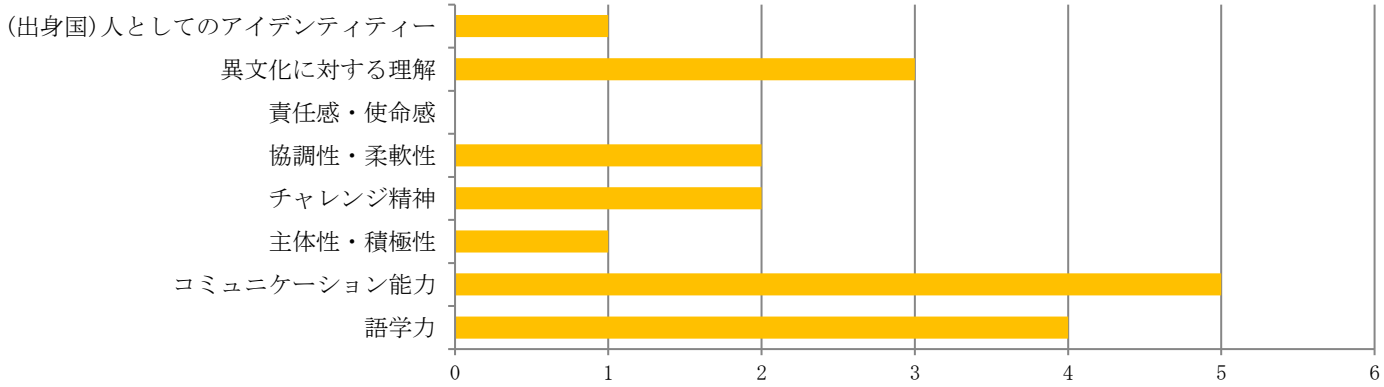
グローバル人材の条件として特に重要だと思う項目を３つ選んでください。



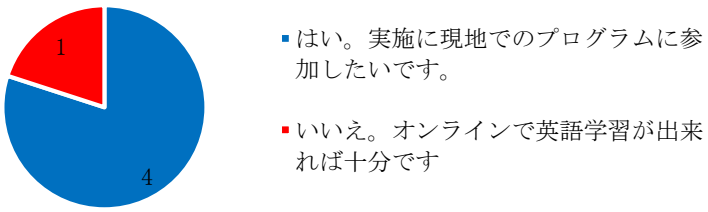
事前

事後

グローバル人材の条件として特に重要だと思う項目を３つ選んでください。



海外に渡航できる状況となったら、
現地でのプログラムに参加したいですか。



2021 年度オンライン海外研修プログラムの報告

會田 篤敬

１．オンライン海外研修プログラムの概要

2020 年度に引き続き、2021 年度も新型コロナウイルス感染拡大に伴い、留学派遣・受入に大きな影響が出た。そのような状況下で、長期休暇中に下記のオンライン海外研修プログラムが行われた。各プログラムでは、英語の授業だけではなく、文化体験や現地の学生との交流の機会も設けられていた。

2021 年度 夏季 オンライン海外研修プログラム

コース	プログラム期間	参加人数
ノーザン・アイオワ大学（米国）	2021 年 8 月 24 日（火）～9 月 17 日（金）	10 人（医：1、教：1、工：4、生：2、修士：1、研究生：１）
レスター大学（英国）一般プログラム	2021 年 8 月 2 日（月）～8 月 20 日（金）	1 人（生：1）
レスター大学（英国）医学系プログラム	2021 年 8 月 2 日（月）～8 月 20 日（金）	6 人（医：6）

2021 年度 春季　オンライン海外研修プログラム

コース	プログラム期間	参加人数
レスター大学（英国）	2022 年 2 月 7 日（月）～2 月 25 日（金）	1 人（医：1）
ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）	2022 年 2 月 22 日（火）～3 月 17 日（木）	1 人（工：1）
杭州電子科技大学（中国）	2022 年 2 月 22 日（火）～2 月 28 日（月）	7 人（医：1、工：1、生：3、修士：1、博士：1）

２．プログラムのサポート

オンライン海外研修プログラムに参加した学生に事前授業、及びおはなしサポートの 2 種類のサポートを提供した。

オンラインプログラム参加者向けの事前授業が行われた。新型コロナウイルス感染防止対策のため、オンラインで実施された。この事前授業では、本学の留学派遣・受入を担当している教員が講師として「授業に向けての精神面での準備」、及び「留学中の記録」の 2 つの内容について講義した後に、留学中のサポート体制に関して説明をした。

おはなしサポートの内容は、担当教員と留学に関する相談や話をするといったものである。プログラム前では、海外大学が提供する授業の受講にあたり不安に思うことなどを自由に相談する場として利用する学生が多くいた。プログラム中は、参加学生の様子を把握するのに非常に役立った。

３．まとめ

2021 年度は、夏季と春季に 3 つのオンライン海外研修プログラムが行われた。新型コロナ感染拡大の影響で海外渡航が難しくなっている状況でも、英語力を向上したい、国際経験を積みたいと考えている学生がいる。そのような学生の思いに全力で応えるため、充実したプログラム、及びサポートを提供できるよう尽力していきたい。

また、2022 年度は、海外渡航ができる可能性がある。そのため、オンラインプログラムだけではなく、実際に現地に行くプログラムのサポート体制の整備や改善にも力を入れていきたい。

海外からの学生受入

2021 年度 5 月 1 日時点では 19 カ国から計 238 名の学生が、11 月 1 日時点では 22 カ国から計 262 名の留学生が在籍していました。新型コロナウイルス感染症の影響により、来日できずオンラインにて授業を受講していた学生が多い中、秋に一時再開された外国人の入国の機会には、12 名の留学生を入国させ、その後年明けの入国規制緩和では速やかに手続し、44 名の留学生を入国させることができました。

１．交換留学

今年度の交換留学生数（2021 年 4 月及び 2021 年 10 月留学開始）は以下のとおりでした。新型コロナウイルス感染症の影響により、渡日することができずオンラインにて授業を受講した学生もいましたが、5 名の学生は無事渡航することができ、キャンパスにて留学生活を送ることができました。

令和 3 年度(2021-2022)

国名	大学名	受入学生数
英国	オックスフォード・ブルックス大学　Oxford Brooks University	2
中国	外交学院　China Foreign Affairs University	2
	杭州電子科技大学　Hangzhou Danzi University	3
	西南交通大学　Southwest Jiaotong University	3
ドイツ	ドレスデン工科大学　Technology University Dresden	1

２．日本語・日本文化短期プログラム

例年、海外の交流協定校との関係を強化し、本学の国際化を推進することを目的として、日本語授業と日本文化体験で構成される 3 週間の日本語・日本文化研修プログラムを 7 月に実施していますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となりました。

A3I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム(通称:A3I エースリーアイ)

大学の世界展開力強化事業 アジア高等教育共同体(仮称)形成促進キャンパスアジアプラスプログラム

国際部では令和 3 年度文部科学省大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～アジア高等教育共同体形成促進～」に「A³I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム」を申請し、採択されました。(実施期間令和 3 年度～令和 7 年度)

以下は令和 3 年度における本プログラムの活動報告です。

A³I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム
― 活動の概要と令和 3 年度の取組状況 ―

1.「A³I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム」の概要

1.1 A³I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラムの背景と目的

文部科学省大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～アジア高等教育共同体形成促進～」は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業対象国・地域の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的とし、2011(平成 23)年度から開始された。

令和 3 年度には「アジア高等教育共同体(仮称)形成促進」として、日中韓及び ASEAN 地域を中心としたアジア諸国との大学間連携による教育研究プログラムの公募が行われ、本学が申請した「A³I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム」が採択された。このプログラムでは、本学、杭州電子科技大学(中国)、釜慶大学校(韓国)、ペルリス大学(マレーシア)の 4 大学が連携し、各大学の AI 研究・教育の強み、産業界との連携ネットワーク、および地域の実践フィールドを相補的に活用することで、AI 国際産学連携の新たな教育モデルを確立し、アジア諸国との架け橋となり、Society5.0 や DX を牽引する AI 人材の育成を目的としている。

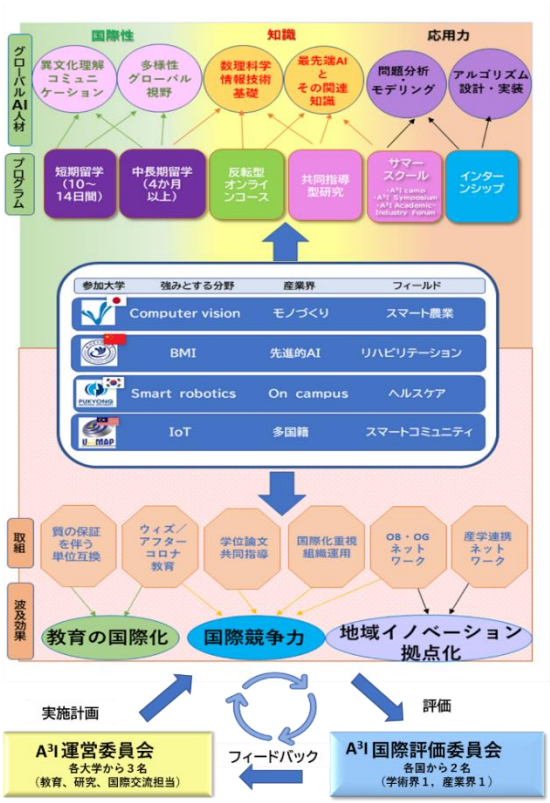


図 1 本事業の概念図

1.2 人材養成目標とプログラム

日本とアジア諸国間の架け橋となって、Society 5.0 と DX を牽引できる AI 人材として、国際性、知識、応用力の 3 側面から、以下の 6 項目の素養と能力を有する人材の育成を目標とする。

1. 国際性
   ① 異なる言語や文化背景の人々と共に行動できる異文化理解・コミュニケーション能力
   ② 多様な価値観を尊重し、国際社会のニーズと枠組みを理解できるグローバルな視野
2. 知識
   ③強固な数理科学と情報技術の基礎
   ④最先端の AI 技術とその関連知識
3. 応用力
   ⑤分野を超えて各種の問題の本質を捉え、定式化するモデリング力
   ⑥問題に合わせて効率的なアルゴリズムを設計し、実装する力

以上を達成するために、多様なプログラムを提供する。具体的には、with/after コロナ時代に備え学年歴の差異を吸収した反転型オンラインコース、各国の文化に根ざし国際性を涵養する短期交流プログラム、各大学の特色ある研究・教育環境をフル活用できる長期留学、実問題解決を通して応用力を鍛えるハイブリッド型サマーキャンプ、共同研究成果と最新技術動向を共有する国際シンポジウム、産学連携を強化する産学連携フォーラム、各大学の産学連携ネットワークを活用したインターンシップ、さらに、質を伴った単位互換システムの構築により、豊かな国際性と確かな AI 技術・高度応用力を修得させるデュアルディグリープログラムである。毎年度 140 名以上の学生が参加し、5 年間 4 カ国で計 70 名以上のデュアルディグリー修了生を育成する計画である。

２． 令和 3 年度の取組状況

2.1 意向書の調印

プログラム開始に先駆けて、各大学の AI 研究・教育の強み、産業界との連携ネットワーク、および地域の実践フィールドを相補的に活用し、コンソーシアムとして相互に協力することを約束し、本学、杭州電子科技大学(中国)、釜慶大学校(韓国)、ペルリス大学(マレーシア)の 4 大学で意向書に調印を行った。

2.2 運営委員会の立ち上げ及び開催

令和 3 年度に 2 回開催した運営委員会では、プログラム全体の目的と展開を改めて全員で共通認識として持つと共に、各国と共同で立ち上げるオンラインの授業や各国の学年暦やカリキュラムについて、学生がスムーズにこのプログラムに参加できるよう、運営の枠組みをまとめた。

具体的な運営員会での審議内容として、カリキュラムについては、各国全大学対応のカリキュラム表を作成し、デュアルディグリーを取得する長期留学生用の単位互換プランを作成した。

また、令和 4 年度に派遣・受入を開始するショートプログラム、サマープログラムについて、新型コロナウィルス感染症の影響を鑑みて、オンキャンパスの場合、オンラインの場合、双方の可能性について検討を行った。

2.3 留学生の学習環境整備

「留学生の学修履歴のための成績証明書および補足資料に関するガイドライン」に従い、学習内容及び評価方法がより明確となるように、学内のシラバス記載内容の見直しを行った。山梨大学内の教務システムにおい

て電子証明書発行システムの改修を行い、成績証明書の電子化に取組、学生の学習環境インフラ整備を行った。これにより、学生の証明書手続きを簡素化することができ、各国の学生が本学のプログラムに参加できる環境を整えることが出来た。

山梨大学内に新たに動画配信システムを導入し、既存の e-Learning システム Moodle と連携させることで、各国の学生が利用できる環境を整える事が出来た。これにより次年度からの学生交流をスムーズに行うことが出来る。

2.4　プログラム推進のためのサポート体制構築

国際企画課、工学部支援課、コンピュータ理工学科において国際交流専門職員の新規配置／充実を行い、留学生向けの各種書類の英語化をさらに進め、留学生の受入れとサポート体制の強化を行った。

2.5　ワークショップ及びキックオフシンポジウムの開催

令和 4 年 3 月 17 日（木）、ワークショップ及び「A^3I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム」のキックオフシンポジウム「AI=The future of Asia 」をオンラインで開催し、コンソーシアムを組む本学、杭州電子科技大学（中国）、釜慶大学校（韓国）、国立ペルリス大学（マレーシア）の教職員及び学生など約 150 人が参加した。

午前中には４大学の学生によるワークショップが開催され、AI とアジアの未来について、４ヶ国混合のグループディスカッションを行った。オンラインではあったが学生同士の交流を深め、また AI の知識を共有し、アイディアを共創するというプロセスを体験する、という学生にとって貴重な機会となった。

引き続き午後からのシンポジウムでは、冒頭、第一部で島田眞路学長ほか各大学の学長から挨拶をいただき、先に調印した意向書をそれぞれで掲げ更なる協力関係の構築を約束した。その後、本プログラムの責任者である茅暁陽副学長・国際交流センター長がプログラムの概要紹介を行った。

その後、第二部として各国から AI 産業のトップランナーをお招きして、基調講演を行った。堀田創氏（シナモン AI 共同創立者、フューチャリスト）、Hongxia Yang 氏（アリババ AI ディレクター）、Junku Yuh 氏（Korea Institute of Robotics and Technology Convergence（KIRO）理事長）、Hai Liang（Duncan）Lee 氏（Intel 株式会社 IT 部門主席エンジニア）の４名から、それぞれ各産業界にて AI がどのように活用されているか実体験を交えて講演いただき、現在の社会の動向と未来の AI の可能性について学びを得ることができた。

第三部では、シンポジウムに先立って開催した学生ワークショップの成果発表を行い、４大学混合の 4 つのグループが、将来の AI の展望や、AI を活用することで直面する困難についてプレゼンテーションを行った。近い将来、学生の皆さんによって様々な社会問題が解決されることが期待される。

第四部では、基調講演の講師等をパネリストに「AI 時代に向けたアジアの学生流動性の加速化」をテーマとしたパネルディスカッションを行い、AI が切り拓く未来について学び・議論する貴重な機会となった。

このシンポジウムを契機に、4 大学による共同交流プログラムを実りのあるものにし、各国の抱える課題を解決に導くグローバル AI 人材の育成と各大学の国際化の推進に取り組んでいく決意を新たにした。

図 4 キックオフシンポジウムを周知するフライヤー

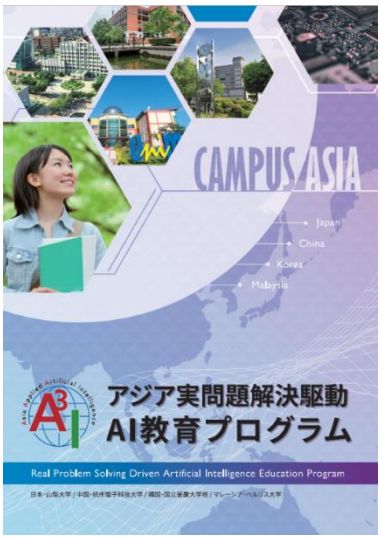
図 5 趣意書を掲げる各大学の学長

図 6 参加者の様子（一部）

2.6 広報活動

プログラムを世界に向けて広く発信するために、日本語・英語２ヶ国語のホームページを立ち上げた。プログラムの目的および内容を分かりやすく紹介し、各種活動に対する参加募集や活動の様子をタイムリーに掲載している。

また、プログラムを紹介するパンフレットも作成し、学内外に広く配布した。



パンフレット

ホームページ

III. 日本語教育・留学生サポート事業

留学生のための日本語教育および修学・生活上の指導・相談、外国人留学生向けイベントなどの外国人留学生支援にも力を注いでいます。

日本語教育

１．日本語 Intensive コース

国際交流センターにて開講している日本語 Intensive コースについて、年次報告を以下に掲載して報告します。

2021 年度 日本語 Intensive コースの報告

布村 猛・會田 篤敬

1. 日本語 Intensive コースの概要

国際交流センターで提供している日本語 Intensive コースには、「日本語 Intensive 入門 I」、「日本語 Intensive 入門 II」、「日本語 Intensive 初級」の 3 つの授業がある。いずれのコースも指導教員の許可を得た私費留学の研究生、英語コース所属の大学院生、そして交流協定大学からの交換留学生を受講生として受入れている。単位取得を必要とする交換留学生に関しては、必要要件を満たしコースを修了した者には単位認定を行っている。「日本語 Intensive 入門」コースは「大学院や教員研修などの勉学生活に入るために基礎的な日本語力の習得をめざす」ことを目標にしており、「日本語 intensive 初級」コースは「大学・日常生活を円滑に送るため、入門コースで学んだ知識を運用に結びつけ、読む・書く・聴く・話す、の四技能においてコミュニケーション力を中級レベルへ高めること」を目指している。いずれのコースも指導教員の許可を得た私費留学の研究生、そして交流協定大学からの交換留学生も受講生として受入れている。単位取得を必要とする交換留学生に関しては、必要要件を満たしコースを修了した者には単位認定を行っている。これらのコースは言語のみならず、文化、そして地域社会について学べる環境を提供しつつ、日本や山梨のよき理解者へと育成することを目指している。

2. 2021 年度 前期　日本語 Intensive コース

新型コロナウイルス感染拡大により、本学の留学生受入れも多大な影響を受けた。2021 年度に来日予定であった留学生の渡日についても、コースが開始する 4 月以降も目処が立たたず、全てのコースをオンラインで開講することを余儀なくされた。

2.1.　前期 日本語 Intensive 入門 I（週 6 コマ）

受講生は、南アジアからの留学生 3 名と東アジアからの学生 1 名の計 4 名だった。授業は、週 2 回（各回は 3 コマ）の頻度で行われた。6 コマのうち、4 コマは新出文法や単語に焦点を当てた授業であった。残りの 2 コマのうち、1 コマは漢字の授業、もう一方は作文や会話表現などの授業だった。
使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『改訂版　聞く・考える・話す留学生のための初級日本語会話』
　　『みんなの日本語初級 I　本冊』
副教材：『みんなの日本語初級 I　第 2 版 書いて覚える文型練習帳』
　　『みんなの日本語初級 I　第 2 版 標準問題集』
　　（いずれもスリーエーネットワーク）

授業時間の中では、新規語彙・文法項目の使い方を学び口頭練習を行うのみで、応用問題は次回までの課題としたが、受講生の熱心な予習・復習と作文課題などへの取り組みにより、1 課を 1 コマずつ、導入と練習の後にはできる限り受講生同士の対話ができるような時間を取り、場面にあった発話ができるよう促した。6、7 課ごと

のテストは言語知識を問うものだけではなく、場面設定のある会話で運用力をみるタスクを与え、評価を行った。

2.2.　前期 日本語 Intensive 入門 II（週 6 コマ）

受講生は、アフリカからの留学生 1 名だった。この学生は、博士課程の大学院生だった。授業は、週 2 回（各回は 3 コマ）の頻度で行われた。6 コマのうち、4 コマは新出文法や単語に焦点を当てた授業であった。残りの 2 コマのうち、1 コマは漢字の授業、もう一方はプレゼンテーションの授業だった。先述の通り、授業はオンラインで行われたが、最後の回のプレゼンテーション発表のみ、対面で行った。プレゼンテーションのトピックは、自身が博士課程で行なう研究内容であった。科学的な内容を含んでおり、非常に複雑な内容であったが、図やグラフなどを使用し、工夫しながらプレゼンテーションのスライドを作っていた。
使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『改訂版　聞く・考える・話す留学生のための初級日本語会話』
　　：『みんなの日本語初級Ⅱ 本冊』
副教材：『みんなの日本語初級Ⅱ 第 2 版 書いて覚える文型練習帳』
　　『みんなの日本語初級Ⅱ 第 2 版 標準問題集』
　　（いずれもスリーエーネットワーク）

受講生が 1 名のみだったが、最初から最後まで精力的に学習に取り組んでいた。授業内の会話では、自国の文化や自身の家族についての話題が多かった。研究室において、指導教員や日本人学生と日本語で話したいという思いが大きなモティベーションになっていたように思われる。また、実際に指導教員や日本人学生と日本語で話したエピソードを嬉しそうに話していたことも印象的であった。

2.3.　前期　日本語 Intensive 初級　（週 5 コマ）

受講生は、ヨーロッパからの留学生 3 名と東南アジアからの留学生 7 名、東アジアからの留学生 1 名、中南米からの留学生 1 名の計 12 名だった。授業は、週 3 回 6 コマの頻度で行われた。6 コマのうち、3 コマは新出文法や会話表現に焦点を当てた授業であった。残りの 2 コマのうち、1 コマは読解の授業、もう一方はプレゼンテーションの授業だった。本授業の最大の特徴として、留学生が自身の研究や専門を紹介するプレゼンテーションを日本語で行う点にある。これは、自身の専門分野で一般的に使用される専門語彙を、一般的な日本語教育過程よりも、早い段階で学び、使用可能とすることを目的としたものである。これにより、研究室内でのコミュニケーションや、就職活動を日本でする際のコミュニケーションの活発化が期待される。
使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『Weekly J:日本語で話す 6 週間』（凡人社）
　　：『改訂版 日本語中級 J301 -中級前期-』（スリーエーネットワーク）

プレゼンテーションでは、「ぶどうの摘果を AI の力でどのようにサポートできるか」「モモ穿孔細菌病をどのように回避できるか」といった内容の発表があり、自身の専門と山梨を関連付けようと努力している様子が伺えた。

3. 2021 年度 後期　日本語 Intensive コース

2021 年度後期のコースについても、コースが開始する 9 月以降も留学生の入国の目処が立たたず、全てのコースをオンラインで開講することを余儀なくされた。

3.1.　後期 日本語 Intensive 入門 I（週 6 コマ）

受講生は、アフリカからの留学生 3 名と東アジアからの学生 2 名の計 5 名だった。授業は、週 2 回（各回は 3 コマ）の頻度で行われた。6 コマのうち、4 コマは新出文法や単語に焦点を当てた授業であった。残りの 2 コマのうち、1 コマは漢字の授業、もう一方は作文や会話表現などの授業だった。
使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『改訂版　聞く・考える・話す留学生のための初級日本語会話』
　　『みんなの日本語初級 I　本冊』
副教材：『みんなの日本語初級 I　第 2 版 書いて覚える文型練習帳』
　　『みんなの日本語初級 I　第 2 版 標準問題集』
　　（いずれもスリーエーネットワーク）

授業時間の中では、新規語彙・文法項目の使い方を学び口頭練習を行うのみで、応用問題は次回までの課題としたが、受講生の熱心な予習・復習と作文課題などへの取り組みにより、1 課を 1 コマずつ、導入と練習の後にはできる限り受講生同士の対話ができるような時間を取り、場面にあった発話ができるよう促した。6、7 課ごとのテストは言語知識を問うものだけではなく、場面設定のある会話で運用力をみるタスクを与え、評価を行った。

3.2.　後期 日本語 Intensive 入門 II（週 6 コマ）

初回授業の受講生は、中国からの交換留学生 1 名とバングラデシュからの大学院生 3 名の合計 4 名であった。1 名の交換留学生と 3 名の大学院生のうち 1 名は来日できていなかったため、オンラインで授業を行なった。来日できていた 2 名は、大学院での授業や研究室のコアタイムと授業時間が重なっていた関係で、本学提供している補講の日本語授業へと変更した。前期と同様に、この授業は、週 2 回（各回は 3 コマ）の頻度で行われた。授業内容も変更はなく、6 コマのうち、4 コマは新出文法や単語に焦点を当てた授業であった。残りの 2 コマのうち、1 コマは漢字の授業、もう一方はプレゼンテーションの授業だった。最後の回にプレゼンテーション発表があったが、受講生が来日できていなかったため、こちらもオンラインで行った。プレゼンテーションのトピックは、自身の研究内容であった。このプレゼンテーションでは、単に研究内容を紹介するだけにとどまらず、自国の大学での研究環境、自身の研究がどのように役立つのか、自身の研究をもとに将来やりたいこと等に関してもしっかりと説明しており、真摯に取り組む姿勢が見られた。
使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『改訂版　聞く・考える・話す留学生のための初級日本語会話』
　　：『みんなの日本語初級Ⅱ 本冊』
副教材：『みんなの日本語初級Ⅱ 第 2 版 書いて覚える文型練習帳』
　　『みんなの日本語初級Ⅱ 第 2 版 標準問題集』
　　（いずれもスリーエーネットワーク）

先述の通り、この授業は週 2 回（各回は 3 コマ）の頻度で行われた。日本語 SA による会話活動（30 分）もこの授業で行われた。そこでは、知っている単語で何とか伝えようと頑張る、言いたい単語や言い回しを質問するなど、精力的に参加していた。また、この授業の最終回では、担当教員に向けた手紙を読むなど、コミュニケーションに対する意欲の高さが窺えた。

3.3.　後期　日本語 Intensive 初級　(週 5 コマ)

受講生は、南アジアからの留学生 1 名、東南アジアからの留学生 1 名、東アジアからの留学生 2 名の計 4 名だった。授業は、週 3 回 6 コマの頻度で行われた。6 コマのうち、3 コマは新出文法や会話表現に焦点を当てた授業であった。残りの 2 コマのうち、1 コマは読解の授業、もう一方はプレゼンテーションの授業だった。本授業の最大の特徴として、留学生が自身の研究や専門を紹介するプレゼンテーションを日本語で行う点にある。これは、自身の専門分野で一般的に使用される専門語彙を、一般的な日本語教育過程よりも、早い段階で学び、使用可能とすることを目的としたものである。これにより、研究室内でのコミュニケーションや、就職活動を日本でする際のコミュニケーションの活発化が期待される。
使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『Weekly J:日本語で話す 6 週間』(凡人社)
　　：『改訂版 日本語中級 J301 -中級前期-』（スリーエーネットワーク）

プレゼンテーションでは、「AR 技術を使った考古展示の方法論」「抗がんペプチド薬の発見とがん治療への応用」といった特定の分野と工学を組み合わせるような発表が多く見られた。

4. 長期休暇中の日本語 Intensive コース

第三期中期計画に従って、アジアをはじめとする諸外国から優秀な留学生の受入れ拡大に取り組んできた。それに合わせて、英語対応コースの漸増も含め、カリキュラムのグローバル化も進めてきた。このような環境整備のなか、留学生のうち実に 63%は大学院生であり、日夜各自の研究に専念できている。しかしながらその 7 割以上は、ビジネス日本語はもとより、修了時においても日本語は、ほぼ 0 レベルのままに等しいという課題がある。この課題を解決するために、英語対応コースに入学予定の大学院生については、入学時に N4 レベルに到達できるように、渡日前に半年間日本文化・日本事情を題材としながら 300 時間の日本語強化コースとして、「intensive online コース」を提供している。このコースは、8 月から 10 月と 1 月から 3 月までの 3 ヶ月を使用して、週 6 日、90 分×12 コマの授業を提供するものである。これらのコースはすべて、日本語能力検定に合格するための基本的な文法項目の理解と、ビジネス場面において求められるコミュニケーション能力の向上を目標として開講されている。使用教材、及び指導内容は上記「intensive 入門コースⅠ」と「intensive 入門コースⅡ」を合わせた内容である。

5. まとめ

2021 年度は、2020 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大に伴う未曽有の事態に見舞われた。しかし、そんな状況下でも日本語教育を担当する教員が協力し、オンライン形式、対面形式、双方の可能性を模索しながら、日本語 Intensive コースを提供することができた。今後は、対面かオンラインかと言う単純な二項対立ではなく、それぞれの長所を活かした、広義のブレンディッド・ラーニングを検討していくことになるであろう。期せずして起こった教育と学びのブレイクスルーの渦中にいる者として、山梨大学のこれからの日本語教育の在り方を今後も考えていきたい。

２．日本語補講

日本語補講は、国際交流センターが提供する授業科目以外の日本語教室です。主として大学院生や研究生を対象とし、研究者またはその家族にも開かれたプログラムとなっています。実施状況について国際交流センター江崎哲也准教授の年次報告にて報告します。

日本語補講

江崎　哲也

１．留学生を取り巻く状況と、本学の日本語教育

国際交流センターでは 2021 年度は表１に示すように、(1)学部留学生向け日本語科目を年間 13 コマ、(2) Intensive 日本語コースを年間 24 コマ、(3)夏季/春季休暇 Intensive 日本語コースを年間 28 コマ、(4)日中研究が忙しくてそれらの授業に出られない大学院生や研究生のためにＶ時限（16 時 30 分～）以降に日本語補講を年間 12 コマ開講した。このように数多くの日本語の授業・補講を提供してきたのは、留学生が入学後できるだけ短期間のうちに日本語を習得し、専門の勉強や研究を支障なくできるようにするためであり、レベル別のクラスできめ細かく丁寧に指導する必要があるからである。また、本学の第 3 期中期目標中期計画において設定されている留学生受け入れ数値目標を達成し、さらに、文部科学省(2020)が述べているように、ポスト留学生 30 万人計画を見据えて、大学内で留学生の日本語能力を高め、日本国内の企業に就職させていくことが必要とされているためである。

表１ 国際交流センター開講科目一覧（日本語科目・日本語補講のみ）

開講科目	コマ数/年度	おおよその日本語レベル ＊ JLPT: 日本語能力試験	出席が必要なコマ数
(1)学部留学生向け日本語科目	13（4 レベル）	JLPT N2 以上 （日本語学習歴 600 時間以上）	1～2 コマ/週
(2)Intensive 日本語コース	24（3 レベル）	入門期から JLPT N4	5～6 コマ/週
(3) 夏季/春季休暇 Intensive 日本語コース	28（1 レベル）	入門期	14 コマ/週
(4)日本語補講	12（6 レベル） ただし授業回は 12 回	入門期から JLPT N5（両キャンパス） JLPT N3（主に甲府キャンパスの学生） JLPT N2（主に医学部キャンパスの学生）	1～2 コマ/週

２．日本語補講の完全オンライン化に伴うスリム化

2020 年度は昨今の留学生施策を鑑み、2020 年度はそれ以前に比し２コマ増の計 16 コマ相当の時間を日本語補講としてオンラインで開講してきた（表２参照）。しかしながら、オンラインであっても十分学習効果が得られることが確認できたため、2021 年度は表３に示す通り、基本的には所属キャンパスの区別をなくし、６レベル６クラスを開講し、それぞれ前期・後期ごとに週１回 12 週にわたって展開された。なお、この日本語補講」は、単位認定の対象にはならず、席が用意できる限りは、留学生の家族、研究者・研究員にも受講を認めている。

表２　「日本語補講」一覧　2020 年度

キャンパス	クラス名	開講学期	対象レベル（日本語学習歴）	クラスにおける総学習時間
甲府	K-A（入門 1）	前期・後期	0-25 時間	18 時間（90 分×12 回）
	K-B（入門 2）	前期・後期	15-50 時間	18 時間（90 分×12 回）
	K-C（初級 1）	前期・後期	35-100 時間	18 時間（90 分×12 回）
	K-D（初級 2）	前期・後期	50-100 時間	18 時間（90 分×12 回）
	K-E（論文作成・口頭発表）	前期・後期	450 時間以上	18 時間（90 分×12 回）
医学部	M-A（入門）	前期・後期	0-25 時間	12 時間（60 分×12 回）
	M-B（初級）	前期・後期	15-50 時間	12 時間（60 分×12 回）
	M-C（初中級）	前期・後期	35-100 時間	12 時間（60 分×12 回）
	M-E（論文指導・医療の日本語）	前期・後期	600 時間以上	18 時間（90 分×12 回）

表３「日本語補講」一覧　2021 年度

キャンパス	クラス名	開講学期	対象レベル（日本語学習歴）	クラスにおける総学習時間
甲府／医学部	K-A（入門 1）	前期・後期	0-25 時間	18 時間（90 分×12 回）
	K-B（入門 2）	前期・後期	15-50 時間	18 時間（90 分×12 回）
	K-C（初級 1）	前期・後期	35-100 時間	18 時間（90 分×12 回）
	K-D（初級 2）	前期・後期	50-100 時間	18 時間（90 分×12 回）
	K-E（論文作成・口頭発表）	前期・後期	450 時間以上	18 時間（90 分×12 回）
	M-E（論文指導・医療の日本語）	前期・後期	600 時間以上	18 時間（90 分×12 回）

３．2021 年度前期

2021 年度前期の開講クラス、及び受講者は以下の表の通りである。

表４　2021 年度前期各クラスの申し込み者数と使用テキスト

クラス名	申し込み者数	使用テキスト/内容
入門１	13	『まるごと　日本のことばと文化入門 A1 かつどう』　第１課～第９課
入門２	9	『まるごと　日本のことばと文化入門 A1 かつどう』　第 10 課～第 18 課
初級１	5	『まるごと　日本のことばと文化 初級１ A2 かつどう』　第１課～第９課
初級２	8	『まるごと　日本のことばと文化 初級１ A2 かつどう』　第 10 課～第 18 課
論文作成・口頭発表	9	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習
論文指導・医療の日本語	1	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習、医療関連の日本語指導

４．　2021 年度後期

2021 年度後期の開講クラス、及び受講者は以下の表の通りである。

表５　2021 年度後期各クラスの申し込み者数と使用テキスト

クラス名	申し込み者数	使用テキスト/内容
入門１	6	『まるごと　日本のことばと文化入門 A1 かつどう』　第１課～第９課
入門２	11	『まるごと　日本のことばと文化入門 A1 かつどう』　第 10 課～第 18 課
初級１	2	『まるごと　日本のことばと文化 初級１ A2 かつどう』　第１課～第９課
初級２	3	『まるごと　日本のことばと文化 初級１ A2 かつどう』　第 10 課～第 18 課
論文作成・口頭発表	6	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習
論文指導・医療の日本語	0	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習、医療関連の日本語指導

５．　入門クラス等における使用教材の変更

６．　申し込み者数の変化と申し込み方法の変更

表６に 2014 年度から 2021 年度の日本語補講の申し込み者数の推移を示す。2014 年度までは甲府キャンパスで３クラス、医学部キャンパスで５クラスの日本語補講を開講していたが、医学部キャンパスの１クラス当たりの平均申し込み者数が甲府キャンパスを下回ったため、2015 年度から両キャンパスとも４クラスとした。また、2015 年度後期からは各キャンパスの受講者のニーズにより適合したテキストに変更し、入門期から初級までの連続性があるクラスを開講した。さらに、2019 年度後期に大学院の留学生が急増したことを受け、申し込み方法を web 申し込みに変更した。これらによって、2019 年度後期には日本語補講の申し込み者数が 89 人に上った。前述のように 2020 年度は甲府キャンパスのコマ数が２つ増加したため、申込者の増加が見込まれたが、新型コロナウィルス感染症の影響が拡大したために、進学をあきらめざるを得ない学生もいたことから、後期は減少に転じた。2021 年度についてはさらに受講者数が減少したが、これは前述の「夏季/春季休暇 Intensive 日本語コース」が非常に充実したものであり、本学進学前の受講生にも広く開放したためである。この「夏季/春季休暇 Intensive 日本語コース」は修了時に JLPT N4 程度まで日本語力を伸ばすものであるため、日本語補講 K-A～K-D レベルを遥かに超える力が身につく。そのため、受講者数が大幅に減ったと考えられる。

表６　日本語補講の申し込み者数）の推移

	2014 年度		2015 年度		2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度		2020 年度		2021 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	前期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
甲　府キャンパス	18	12	13	17	17	32	15	15	15	40	28	81	52	46	45	28
医学部キャンパス	11	16	13	14	14	14	6	6	6	9	18	9	12	12		
合計	29	28	26	31	31	46	37	57	21	49	46	89	64	58	45	28

甲府３クラス→ 医学部５クラス→	→甲府４クラス →医学部４クラス		
共通テキスト→	→異なるテキスト		
		→Web 申し込み	
			→統合

７．　まとめと今後の課題

2015 年度から 2021 年度にかけて日本語補講に対して５つの非常に大きな変更（①受講希望者のニーズに合わせた両キャンパスのクラス数の変更、②使用テキストの変更、③各クラスのレベルに連続性を持たせたこと、④申し込みを紙ベースから web に変更）⑤オンライン化とスリム化を行ってきた。これらの改革と大学院留学生数の増加が相まって補講の申込者数は増加の一途をたどっていたが、2021 年度の申し込み者数は合計 73 人となった。しかし、参加した受講生に対して G-フィロス（本学のグローバル共創学習室）の「日本語サポート」を利用した実践的な練習を宿題として課すことによって、日本語力できる限り伸ばすよう努めてきた。

日本語補講の受講者の多くは、英語で研究する学生であるが、生活に必要な日本語の習得や大学院の授業を日本語で受講することを切望しており、一部は日本での就職も希望している。今後とも一層の日本語補講の充実を図り、大学院生や研究生などの日本語力の向上を目指して、彼らの日本での研究生活をより充実したものにしていくことが求められる。

■参考文献

文部科学省(2018)「ポスト留学生 30 万人計画を見据えた留学生政策」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/__icsFiles/afieldfile/2018/05/28/1404629_4_1.pdf　(2020 年 8 月 8 日参照)

３．日本語・日本事情教育

国際交流センターでは、主に学部留学生を対象として、日本語・日本語関連科目も開講しています。国際交流センター江崎哲也准教授の年次報告にて報告します。

日本語・日本語関連科目

江崎　哲也

主に学部留学生を対象として開講されている、国際交流センターが提供する全学共通教育科目の日本語・日本語関連科目について 2021 年度の報告を行う。

１．開講科目

2021 年度開講の日本語・日本語関連科目は以下の通りである。科目名のⅠは前期、Ⅱは後期開講であることを指す。また、★は 2021 年度に新たに開講した科目を示す。

前期（計９科目）

日本語初中級ＩＡ、日本語初中級ＩＢ、日本語中級ＩＡ、日本語中級ＩＢ、
日本語中上級Ⅰ、日本語上級Ⅰ、日本語演習Ａ、
日本事情Ⅰ、Language & Communication across Cultures、★グローバルヘルス入門、★Health System and Well-being in the World

後期（計８科目）

日本語初中級ⅡＡ、日本語初中級ⅡＢ、日本語中級ⅡＡ、日本語中級ⅡＢ、
日本語中上級Ⅱ、日本語上級Ⅱ、
日本事情Ⅱ、★How to Effectively Study a Foreign Language

クラス分けは、前期・後期の履修申告の直前に行われたプレイスメントテストの結果に基づいて行った。レベルは初中級、中級、中上級、上級の４レベルとし、演習[1]は中級以上の学生を対象とした（図１）。

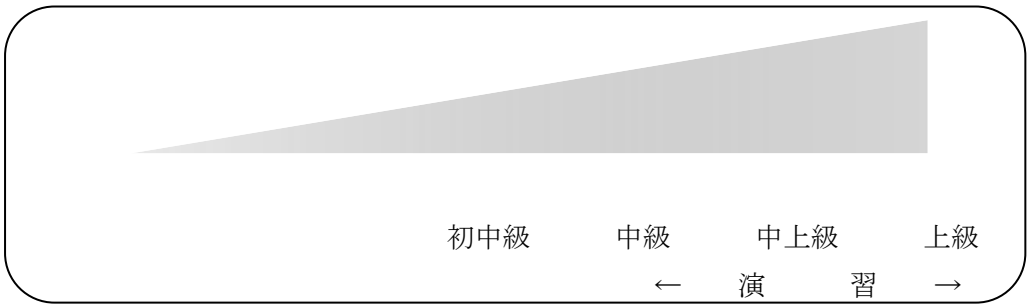


図１　日本語のレベル

各科目の受講生の学年、身分の内訳は、表１の通りである。なお、表中の NNS とは留学生、及び日本語を母語としない（あるいは日本語を第一言語としない）学生を指し、NS とは日本語を母語とする（あるいは日本語を第一言語とする）学生を指す。

---

[1] 「日本語演習」は口頭発表能力を向上させることを目的とした科目であるが、発表のテーマについては特に与えられず、テーマ選びから受講生自ら行わなければならないため、「中級以上、かつ学部２年生以上」という制限を設けている。しかしながら、他の授業との兼ね合いで、前期に受けられる日本語科目がない場合に限り、１年生の受講も認めている。

表１　2021 年度　日本語・日本語関連科目の受講生[2]

科目名	前期/後期	担当	母語	受講生総数	学年・身分別にみた受講生							G-フィロスを利用して課題を提出するよう促した課題の数
					１年	２年	３年	４年	交換生	院生	研究生・教員研修生等	
初中級ⅠA	前	仲本	NNS	7	3				3	1		3
初中級ⅡA	後	會田	NNS	6	1				4	1		3
初中級ⅠB	前	江崎	NNS	5	2				2	1		12
初中級ⅡB	後	江崎	NNS	5					4	1		5
中級ⅠA	前	江崎	NNS	11	3	4			3		1	5
中級ⅡA	後	廣居	NNS	7	5				1	1		3
中級ⅠB	前	伊藤	NNS	12	4	2	1			1	4	5
中級ⅡB	後	伊藤	NNS	4	2				2			7
中上級Ⅰ	前	會田	NNS	18	7	4	2		3	2		3
中上級Ⅱ	後	仲本	NNS	8	3				4	1		3
上級Ⅰ	前	江崎	NNS	5		5						4
上級Ⅱ	後	江崎	NNS	3		3						3
演習A	前	江崎	NNS	7	1	4		1		1		6
日本事情Ⅰ	前	伊藤	NNS	13	7	1			1	2	2	12
			NS	20	16	4						－
日本事情Ⅱ	後	伊藤	NNS	14	2			1	8	2	1	12
			NS	22	15	5	2					－
Language & Communication across Cultures	前	奥村	NNS	15	4	6	1		4			－
			NS	3	1		2					3
グローバルヘルス入門	前	宮本	NNS	5		1			3		1	－
			NS	50	41	6	3					－
Health System and Well-being in the World	前	宮本	NNS	1	1							－
			NS	29	28		1					－
How to Effectively Study a Foreign Language	後	會田	NNS	10	3				7			3
			NS	8	6	1	1					3

表２に日本語・日本語関連科目の受講生数の推移を示す。日本語科目（初中級、中級、中上級、上級、演習）の受講生数（延べ人数）は、2014 年度から 2019 年度まで増減を繰り返していたものの、2020 年度は 132 人と増加傾向に転じていた。しかし、2021 年度は学部新入留学生の数が少なかったためか、大きく減少した。GPA を強く意識しているためか、卒業要件に必要な日本語科目の履修が終わったと思われる学部 3・4 年生の受講生が少ない傾向は続いている。一方、研究生、大学院生については、日本での就職を意識する学生が少しでも日本語力を高めるべく、積極的に日本語の授業に参加する姿が見られた。

日本語関連科目（日本事情、Language & Communication across Cultures、グローバルヘルス入門、Health System and Well-being in the World、How to Effectively Study a Foreign Language）は、2014 年度から 2019 年度まで増減を繰り返していたものの、2020 年度は減少傾向に転じていた。しかし、2021 年度は合計 190 人となり、特に日本語を母語とする学生の受講者数が伸びた。これらの科目は授業の性質上、受講生数の上限を定めているが、今後とも共修授業に興味を持たせるよう、働きかけていきたい。

表１の右端の数字は、各科目において本学の G-フィロス（グローバル共創学習室）の日本語学習サポートサー

[2] ここでいう受講生は、単位取得希望学生（学部生・交換留学生）以外の、大学院生や研究生なども含めている。

ビス、または英語学習サポートサービスを受けた上で課題を提出するよう促した回数である。どの科目もできる限り SA（Student Assistant）とのコミュニケーションを取らせるよう工夫することで、学習意欲の向上等につなげている。

表２　日本語・日本語関連科目の受講生数の推移

	2014 年度		2015 年度		2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度		2020 年度		2021 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	前期	後期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
日本語科目(NNS)	74	39	57	41	62	60	72	56	57	48	72	56	73	59	65	33
日本語関連科目(NNS)	19	24	19	24	19	23	21	29	58	21	28	33	28	22	34	24
日本語関連科目(NS)	65	55	33	48	35	49	42	49	51	53	41	40	44	39	102	30
合計	158	118	109	113	116	132	135	134	166	122	141	129	145	120	201	87

２．　2021 年度の開講記録

各科目は、以下のような目的・内容で教室活動が行われた（表３参照）。

表３　日本語・日本語関連科目の概要

授業タイトル（主な内容）	担当	主な使用テキスト、参考書	内容				
			読む	書く	聞く	話す	文法
初中級ⅠA（会話と文法）	仲本	『J.Bridge to Intermediate Japanese』（凡人社）	△	△	◎	◎	○
初中級ⅡA（文法の復習と会話）	江崎	『J.Bridge to Intermediate Japanese』（凡人社）	△	○	◎	◎	○
初中級ⅠB（作文）	江崎	『大学・大学院 留学生の日本語②作文編』（アルク）	△	◎	△	△	○
初中級ⅡB（少し専門的な文章の読み方）	江崎	『改訂版大学・大学院　留学生の日本語 ①読解編』（アルク）	◎	△	△	△	○
中級ⅠA（読解）	江崎	『改訂版大学・大学院　留学生の日本語 ③論文読解編』（アルク）	◎	△	△	△	○
中級ⅡA（読解、意見のまとめ方）	廣居	『中・上級日本語教科書 日本への招待　テキスト』(東京大学出版会;第 2 版)	◎	○	△	○	○
中級ⅠB（場面や相手に沿った適切な話し方）	伊藤	『日本語上級話者への道―きちんと伝える技術と表現』（スリーエーネットワーク）	△	○	◎	◎	○
中級ⅡB	伊藤	『小論文への 12 のステップ―中級	△	◎	△	△	○

（作文）		日本語学習者対象』（スリーエーネットワーク）					
中上級Ⅰ（会話・聴解・発表）	會田	『中上級学習者のための日本語会話』（スリーエーネットワーク）	△	△	◎	◎	△
中上級Ⅱ（論理的な文章の書き方）	仲本	・『大学・大学院 留学生の日本語④論文作成編』（アルク）	○	◎	△	△	○
上級Ⅰ（レポート・論文の書き方）	江崎	『論文ワークブック』（くろしお出版）	△	◎	△	△	○
上級Ⅱ（発表のし方と、新聞記事などの資料の読み方）	江崎	『トピックによる日本語総合演習上級』、『トピックによる日本語総合演習　上級用資料集』（スリーエーネットワーク）	○	○	◎	◎	△
演習A（発表のし方）	江崎	『大学生のための日本語―効果的学習のために』（産業能率大学出版部）	△	△	○	◎	△
日本事情Ⅰ	伊藤	『日本の風俗起源がよくわかる本』（大和書房）	日本人の学生と一緒に、日本の文化や日本事情を勉強する授業。文化や社会について学びながら、日本語力を伸ばす。テーマに基づくグループ・ディスカッションを行い、各国・地域や家庭の習慣、文化について紹介しあう。（Ⅰ とⅡは別内容）				
日本事情Ⅱ	伊藤	『日本の風俗起源がよくわかる本』（大和書房）					
Language & Communication across Cultures	奥村	－（授業内指示、自主作成教材）	This class aims to equip students to understand the role of language and communication across cultures highlighting the importance of intercultural communication and language. In the class consisting of both international and Japanese students, all the interactive activities are conducted in English.				
グローバルヘルス入門	宮本	－（授業内指示、自主作成教材）	「グローバルヘルス」とは世界に広がる「容認できない健康格差」を是正するための様々な取り組みを指し、「健康」という視点で日本語を母語とする学生と一緒に世界の課題を考える。				
Health System and Well-being in the World	宮本	－（授業内指示、自主作成教材）	Purpose of the lecture: 1) Students will be interested in the health systems in the world; 2) Students will be interested in the social well-being in the world; 3) Students				

			will think about diversity of system and how to reduce health disparities.
How to Effectively Study a Foreign Language	會田	－（授業内指示、自主作成教材）	Students will learn basic knowledge about effective foreign language learning methods. Students will also get the chance to think about three topics from different points of view. These are the topics: 1. Effectiveness in learning foreign languages, 2. Factors related to learning foreign languages, and 3. How to control foreign language learning factors.

＊「内容」の項目の記号は、◎：よく勉強する(よく取り上げる/扱う)、○：勉強する(取り上げる/扱う)
△：あまり勉強しない（あまり取り上げない/扱わない）ということを表す。

３．　まとめと今後の課題

2021 年度の日本語科目の日本語非母語話者の総受講生数は 98 人であり、前年度に比べて大幅に減少した。

一方、日本語関連科目（日本事情、Language & Communication across Cultures、グローバルヘルス入門、Health System and Well-being in the World、How to Effectively Study a Foreign Language）は、2021 年度に新たに３科目開講したこともあり、日本語非母語話者、日本語母語話者ともに大幅に受講生が増加した。入学当初から異なる文化やグローバルな問題に興味を持てるよう、これらの科目の履修の重要性を母語話者、非母語話者双方に訴えつづけていきたい。また今後も共修型授業を通して、学生の異文化理解力を高めていき、学内の国際化にもつなげていきたい。

2020 年度は行えなかった日本語科目における「G-フィロス」の利用を、2021 年度は 13 科目ある日本語科目すべてに推奨・義務付け、オンラインで日本語学習のサポートを受けるようにさせ、課題の一部を G-フィロスで行うような仕組みにした。これにより、日本語の学習時間が十分確保され、SA と日本語を母語としない学生との交流も促進されたと思われる。

留学生サポート

１．留学生支援・相談、文化交流

国際交流センターでは、留学生の生活・就学に関する相談・指導を行うだけでなく、文化体験・交流や講演会等、留学生にとって有益な行事等を提供することによって、留学生が日本での生活に馴染み、学業に取り組める環境を整えるための支援も行っています。これら留学生支援・相談、文化交流について、国際交流センター伊藤孝惠准教授の年次報告にて、報告します。

留学生支援・相談、文化交流について

伊藤 孝惠

Ⅰ．指導・相談

山梨大学における留学生のための相談体制として、国際交流センターに留学生相談室が設置されているほか、国際交流センターの各教員がそれぞれオフィス・アワーを設けている。国際交流センターでは、留学生のみならず、海外留学や国際交流、G-フィロスに関心のある学生や、日本語教育に関する相談で訪れる学生にも対応している。

本稿では、そのうち、2021 年度に留学生相談室で対応した主だった指導・相談、及び国際交流センターや国際部の一部支援行事や交流行事について報告する。

１．生活、修学、進路・就職相談

コロナ禍で、オンライン授業が続き、友人との交流や活動が制限されている中、コロナ禍に入学した 1、2 年生からは、クラスメイトとの交流が LINE などの SNS 上に限られ、親しい関係が築けていない様子が聞かれた。勉強に不安を感じる留学生には、後述するチューターを配置したほか、同学科の先輩留学生を紹介し、一人で勉学上の問題を抱え込まないようにした。留学生の間でもコロナ感染者や濃厚接触者が少しずつ出始め、国際部では隔離や医療機関の手配などに追われた。留学生相談教員も、入院した留学生には毎日 SNS で様子を聞くなどして、精神的なサポートをした。

新年度から徐々に体調を崩し、オンライン授業にも出られなくなり、自室にこもってしまった留学生や、母国の両親の経済状態が悪化し、アルバイトを探そうにもコロナ禍で思うように見つからない留学生もおり、コロナ禍の影響を留学生も少なからず受けていることが感じられた。

ほかにも、研究室での人間関係によるストレスなどで心身の不調をきたす大学院生に対しては、大学のカウンセリング・サポート室につなぎ、関係者が連携を取りながら支援してきた。指導教員との間でうまくコミュニケーションが取れず研究が進まないといったケースでは、論文提出まで、面談と並行して指導教員と連絡を取り合い、支援を行った。そのほか、大学のアクセシビリティ・コミュニケーション室とともに相談に乗るなどして、指導教員とともに今後の研究指導や対応を検討してきた学生もいる。鬱症状のある学生に対しては、保健管理センターと一緒に話を聞いた上で、相談担当教員が付き添って心療内科を受診し、受診後も継続して支援している。電気会社の乗り換えに関わるトラブルや国際交流会館を退寮後の部屋探し、就労ビザや特定ビザに関する相談など、生活上のサポートを求める学生本人の来室や指導教員からの問い合わせも複数あった。

また、前期は特に就職活動を行う学生からの就職相談、進路相談が多数寄せられた。別稿にある「山梨留学生就職促進プログラム」を 2020 年度後期に受けた留学生のエントリーや採用面接が始まり、各社受けるたびに、エントリーシートや面接に関する個別相談に応じた。就職活動が思うように進まない場合は、励ま

し、自己を見直すセッションを設けるなどした。日本での就職か母国での就職かを迷う学生に対しても、学生本人や母国の家族の意向をよく聴きながら、本人が納得いく進路を一緒に模索した。

２．学部新入生個別面談

毎年 5 月の大型連休明けから、学部新入留学生を対象に 30 分～1 時間程度の個人面談を実施している。例年は留学生に留学生相談室に来てもらい、対面で入学後の生活の様子や気持ちなどを聞いているが、新型コロナウィルス感染状況を踏まえ、オンラインでの面談とした。

毎年この時期に行っている個別面談では、留学生相談室があることを新入生に知ってもらい、今後利用しやすいよう、相談担当教員との顔合わせの意図がある。また、入学当初の不安な気持ちや知りたいこと、困っていることは個々人によって異なり、また、誰に尋ねたらいいか分からないことも、個別に話す機会を設けることで、問題や不安を解消したり適切な窓口を紹介したりすることが可能となっている。

2021 年度も、大学の授業等がオンラインで行われる中、ほとんどの学部新入留学生が、本学に知人・友人がおらず、一日部屋で授業を受けて一人で過ごしており、話し相手は、母国の家族，日本語学校や高校での友人であると答えた者がほとんどだった。一年次前期に受ける授業のほとんどは基礎科目や教養科目で、勉強が難しいという声は少なかったものの、教科書や資料のない授業では、講義内容の理解が難しいということが聞かれた。

３．学部生への学修・健康チェック

9 月に、全学部留学生に対する学修と健康に関するアンケート調査を行った。学部新入生だけでなく、学年が上がっても、それぞれのステージならではの悩みや不安があるため、数年前から毎年行っている。例年は、教室に集まってもらって調査用紙に記入してもらいながら様子を確認しているが、新型コロナウィルス感染防止の観点から、2021 年度も Google Forms によるオンライン調査とした。

全体的にどの学年の留学生も、概ね良好な学修・健康状態であったが、どの学年でも 3 科目以上単位を落とした学生がいた。そのような学生とは個別面談を行い、今後の勉強の仕方などを話し合い、クラス担任や指導教員による指導へつなげるなどした。また、前期の交友関係については、3、4 年生は概ね満足していたが、1、2 年生は不満を感じる学生が 2～3 割占めており、1 年生は母国にいる家族・友人や同国出身の留学生との交流が、他の学年よりも多いという特徴がみられた。一方、大学生活に不満を感じる割合が、少数ではあるが一定数見られたのは、学部 3、4 年生であった。学部 3、4 年生はコロナ禍前の対面授業等を経験していることから、授業や研究のあり方の変化や友人との協働学習や交流、課外活動等ができなくなったことへのストレスが生じたのかもしれない。不安に思っていることとして最も多く挙げられたのは、1 年生では日本語、2 年生では勉強、3 年生ではアルバイト、4 年生では勉強（研究）であった。

4. 留学生ガイダンス

新入留学生を対象に、2021 年度は 4 月 2 日にガイダンスを行い、同日に、前期に日本語・日本語関連科目の履修を希望するすべての留学生を対象に日本語プレイスメント・テストを実施した。後期は、9 月 17 日の日本語プレイスメント・テスト実施時点で後期入学者がほとんど入国していない状態だったため、日を改めて、後期入学者を対象に生活ガイダンスを行った。

4 月の新入生対象の留学生ガイダンスでは、国際交流センター長からの歓迎の挨拶の後、国際交流センター、及び国際部・国際企画課の教職員の紹介からはじまり、学年暦、本学で開講されている日本語・日本語関連科目、日本語 Intensive Course、日本語補講の説明のほか、留学生相談室や G-フィロスの紹介を行った。また、生活ガイダンスとして、新型コロナウィルス感染予防やゴミの分別、交通安全、災害への備えなどの説明を行った。

新型コロナウィルス感染予防の観点から、ガイダンス、プレイスメント・テストとも、オンラインで実施した。

Ⅱ．支援

１．留学生チューター制度 / 留学生サポーター制度

山梨大学では、入学後 1 年目の留学生に対する支援制度として、チューター制度、サポーター制度、及び交流パートナー制度が設けられている。このうち、本項ではチューター制度とサポーター制度について説明し、2021 年度の実績を報告する。

留学生チューター制度は、入学後 1 年目の研究生、及び交換留学生の勉学や生活において、留学生と同研究室の学生や受け入れ教員の推薦する学生が、一年間チューターとしてサポートするものである。2021 年度前期は前年度後期からの継続者を含めて計 22 名、後期は 23 名がチューターとして選出され、前期、後期ともオンラインで複数回説明会を開いて、謝金手続きに関する説明や活動方法、活動内容、活動する際の留意点などを、資料を基に説明した。

数か月ごとにチューターから送られてくる活動報告には、研究生の大学院入試のための勉強や実験補助、交換留学生の日本語サポートや交流などが主な活動として挙げられ、相談担当教員がチューター一人一人に、チューターの抱える不安や問題に対しコメントやアドバイスを送った。

留学生サポーター制度は、留学後 1 年目の大学院生に対し、活動時間を 10 時間以内と限定した上で、学生サポーターとなった学生に、入学当初の市役所や履修等の諸手続きの補助を行ってもらうというものである。市役所や郵便局等での手続きは、煩瑣でサポートする側の負担も大きい。そのため、限定的であるとはいえ、入学当初の煩瑣な諸手続きをサポートしてくれる学生に謝金を支払うこの「留学生サポーター制度」は、大学側の留学生支援の一環として 2019 年度から導入している。2021 年度前期には 8 名がサポーターとして、市役所での住民登録や印鑑作成、銀行口座の開設、携帯電話の購入などにおいてサポートをしてくれた。

また、成績不振や勉学に不安のある学部 2 年次以上の留学生に対しては、クラス担任の教員に面談してもらった後、同学年・同学科の学生や先輩学生をチューターとして推薦してもらい、当該留学生にとって難しい授業の勉強や課題作成の補助などをしてもらっている。この制度は 2014 年度から導入し、2021 度は後期に 3 名の留学生がこの制度を利用して、クラスメイトや同学科の先輩学生から、苦手科目を中心に学習補助をしてもらった。チューターによる学習支援の対象となった 2 年次以上の留学生とそのチューターとは、留学生相談室で話し合いながら、その留学生に合った支援を一緒に考えた。

また、いずれのチューター、サポーターにも、チューターやサポーターとなった学生自身が活動の中での問題等を抱え込まないよう、CNS のコミュニティにおいて、気軽に相談できる窓口として留学生相談室を案内している。

２．学部一年次外国人留学生交流パートナー制度

学部新入留学生に対する支援として、交流パートナー制度を導入している。

学部生にとって、同学年・同学科のクラスメイトの友人を作ることは、授業課題や試験対策などで助け合うだけでなく、大学生活上の様々な情報交換や交流の機会を得ることにもなる。そのため、これまでの大学院生によるチューター制度から、2014 年度は同学年・同学科の日本人学生をチューターとする制度に、2015 年度より謝金を伴わないボランティア活動として交流パートナー制度に改めた。交流パートナーの日本人学生は、要件を満たせば、自発的教養科目（ボランティア活動）の 1～2 単位を取得できる。同じクラスメイトの日本人学生が、留学生の交流パートナーとなり、留学生のクラス内での仲間づくり・居場所づくり、及び学生間の協働学習促進の一助を担っている。

2021 年度も新型コロナウィルス感染拡大の影響により、対面での交流行事は全て見合わせ、オンラインによる交流会を行うのみとなった。コロナ禍以前は、新入留学生のほぼ全員に交流パートナーとなる学生がいたが、コロナ禍で授業やガイダンスがオンラインとなり、学科での新入生合宿など学科で集まる機会がほぼない中で、交流パートナーを募ることは困難を極め、交流パートナーを見つけられない学科もあった。

３．国際交流会館/ ANNEX / 甲斐路分館

2021 年度は 4 月に 5 名の留学生が入居し、4 月下旬に国際交流会館２階の多目的ホールにて、オリエンテーションを開いた。オリエンテーションでは、 会館チューターの学生が、日本語と英語で、寮費や光熱費の支払い方法や共同キッチンや洗濯室、ロビーの使い方、ごみの出し方、非常時の避難場所などについて説明した。また、大学職員からは、会館内の WiFi を皆が安全にスムースに使用できるよう、インターネット使用における注意喚起を行った。

後期は、新入生の入寮時期がバラバラだったこともあり、寮の担当職員や会館チューターが入居時に個別に、上記の内容を説明した。また、4 月の新入留学生向けに行った生活ガイダンスを、後期入学者・入寮者を対象に、オンラインで日本語と英語で行った。生活ガイダンスでは、新型コロナウィルス感染予防策のほか、主に自転車の交通ルールと自転車の任意保険への加入、近所トラブルとなる生活騒音やゴミの出し方、災害への備えなどについて説明した。

寮の担当職員からは、前期と同様に、インターネット使用における注意喚起を行った。

新型コロナウィルスの濃厚接触者となった寮生は、会館の家族室に隔離し、大学職員が部屋まで食事を運ぶなどして、他の寮生と接触しないようにし、会館でクラスターが発生しないよう努めた。

４．留学生のための防災教室

12 月 14 日の昼休みに、甲府市役所防災課と市民課主催による留学生のための防災教室を、本学情報メディア館５階にて開催した。

東日本大震災や阪神大震災、中越大震災を画像や映像で振り返ったほか、会場には実際に使用する避難用テントやトイレを設置し、震災の恐ろしさや防災の大切さを留学生が身をもって学べる工夫をしていただいた。

その後、鈴木猛康先生(土木環境工学科教授)より、簡単にできるスマホの翻訳アプリである Smalingual (スマリンガル)について教えていただき、スマホを持参した留学生は、Smalingual と甲府市の防災アプリのダウンロードの指導を受けた。

日本では子どもの頃から学校や家庭で教わってきた防災に対する知識や備えは、留学生の国とは異なることが多い。母国と異なる環境において万が一の災害に備えた知識や情報入手先を得ておくことは、留学生が安心して日本で暮らす上で不可欠であると思っている。

５．留学生のための防犯講話

当初予定していた時期に、新型コロナウィルスが再び感染拡大したため、中止となった。

Ⅲ．文化交流

例年行われてきた「ホームステイ/ホームビジット」「留学生の実地見学旅行」「岩窪自治会との地域餅つき会」「留学生の華道体験」といった文化交流関連の行事は、新型コロナウィルス感染拡大により、中止となった。

２．山梨留学生就職促進プログラム（通称：IRCS）

本学は令和2年度から文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」の一環として「山梨留学生就職促進プログラム」を実施しています。以下は令和2年度におけるプログラムの活動報告です。

山梨留学生就職促進プログラム
― 活動の概要と令和３年度の取組状況 ―

布村　猛・伊藤　孝惠

１　「山梨留学生就職促進プログラム」の概要

本章においては，令和 3 年度の活動報告をするに当たり，プログラム全体の概要，目的を明確にする.そのうえで，令和 3 年度における活動に注目し，どのような目的でどのような活動を実施したかを述べる.

1.1　山梨留学生就職促進プログラムの目的

本学は，『地域の中核・世界の人材』を旗標に，第三期中期計画（平成 28 年度～令和 3 年度）に従って，海外，特にアジアから多数の留学生を受け入れ，エネルギーや医工学分野の融合研究を積極的に推進してきた.令和元年度からはダブルディグリー制度を活用した，AI，IOT，ロボティクス分野の充実が顕著であり，令和 3 年度 5 月現在，情報系の院生が大学院修士課程の 43%を占めている.その一方で，地域に目を向けると，基幹産業であるロボティクスや機械電子工業は深刻な人手不足に苛まれている.このような地域のニーズに応えるべく，本学では，地域人材育成センターが平成 27 年に文部科学省から地方創生推進事業(COC＋)を受託し，『地域の中核』を担う人材を定着させるキャリア教育カリキュラムを，本学並びに県内 10 大学向けに整備し，県内自治体や企業との密接な連携を確立してきた.これに加えて，本学国際交流センターは，留学生向けに充実した日本語及び日本文化・日本事情教育プログラムを提供するとともに，平成 30 年度には留学生指導教員が総務省キャリアコンサルタントの国家資格を取得し，個別の就職面談を実施することにより，令和元年度には卒業・修了留学生の国内就職率 45.7%を達成している.そこで，両センターが提携し，山梨県・甲府市・県内企業体と産官学三位一体のコンソーシアムを構成することにより，独自の「イノベーション・研究駆動留学生就職促進プログラム」を提案し，留学生人材による地域産業の問題解決を図ると同時に，キャリア教育の組織化による国内就職率のさらなる向上と他大学への波及効果を狙うことを目的とする.

1.2 プログラムの中心となる２つのトラック

本節では，プログラムの特徴である２つのトラックと教育における３本の柱についてその活動の内容に触れながら紹介をする.

本プログラムの最大の特長は，下図に示すとおり，科目の新設・拡充により日本語，コミュニケーション，キャリアの各教育カリキュラムを整備し，地域に根差したイノベーション（以下，「イノベーション駆動トラック」）あるいは共同研究（以下「研究駆動トラック」）を通して，学びを積極的に実践に移す場を提供し，留学生の県内外企業への就職へつなげることにある.「イノベーション駆動トラック」は，入学時にすでに日本語能力が N2 レベルに達している留学生を対象とし，COC＋のフューチャーサーチにおいて，コンソーシアムが用意する実課題に対するソリューションを提案させ，マッチングした企業のサポートを得ながら，提案ソリューションを実現させる.一方「研究駆動トラック」は，英語対応コースに入学する大学院生を対象とし，入学時に最低でも N4 レベルの日本語技能を有してもらうため，渡日前に半年間 300 時間の日本語強化コースを提供するとともに，入学後も夜間や土曜日を利用して時間外の集中強化を施し,修了時にはN2 レベルの技能を保証する.そのうえで,AI，IOT，ロボティクス分野を中心に，学域の所属研究室と企業との共同研究に参加させ，顧客への訪問や月例ミーティングでの日本語プレゼンや他部署とのディスカッションを密に実践させる.いずれのトラックにおいても，

学部生は 3 年次，大学院生は修士 1 年次に，それぞれ 1 ヶ月間のインターンシップにも参加させる.以上が，本プログラムの中心となる２つのトラックである.

1.3 プログラムを支える３本の柱

次に教育における３本の柱である「日本語教育」「キャリア教育」「企業理解教育」について述べる.

1.3.1　日本語教育

まず，「日本語教育」について本学は，第三期中期計画に従って，アジアをはじめとする諸外国から優秀な留学生の受入れ拡大に取り組んできた.それに合わせて，英語対応コースの漸増も含め，カリキュラムのグローバル化も進めてきた.このような環境整備のなか，留学生のうち実に 63%は大学院生であり，日夜各自の研究に専念できている.しかしながらその７割以上は，ビジネス日本語はもとより，修了時においても日本語は，ほぼ 0 レベルのままに等しいという課題がある.一方，学部に目を向けると，就学前から日常生活に不自由のない程度の日本語能力は有しているものの，修学後に部活動やインターシップに参加する機会が圧倒的に少なく，日本のコミュニティやビジネスにつながるレベルへのスキルアップには至っていないという課題がある.これらの課題を解決するために，まず，英語対応コースに入学予定の大学院生については，入学時に N4 レベルに到達できるように，渡日前に半年間日本文化・日本事情を題材としながら 300 時間の日本語強化コースをオンラインで提供する.さらに入学後も，夜間と土曜日を利用して計 300 時間の集中強化を施し，修了時には N2 レベルを保証する.一方，入学時 N2 有資格者には，N1 レベルにスキルアップする既設の日本語カリキュラムを利用させる.以上が「日本語教育」の概要である.

1.3.2　キャリア教育

次に「キャリア教育」についてであるが，本学では共通教育科目として複数キャリア教育科目が開講されている.これらは選択科目であるため，これまでは，自分のキャリアデザインに関心の高い留学生が履修するのみで，国際交流センターが行うキャリア教育との連携は取られてこなかった.また，地域人材養成センターの「未来計画研究社」が主催する「Mirai プロジェクト」には，参加企業・団体と学生が各プロジェクトに協働で取り組んで成果を発表するプロジェクト型の授業科目「フューチャーサーチ」がある.学生は企業とのプロジェクトへの取り組みを通じて，企業を知り，自分が将来働くイメージを形成していくことを目指している.しかし，これまでは本学の留学生の参加はなかった.

一方，国際交流センターでは，キャリアコンサルタントの国家資格を有する日本語教員が，個別面談等を通してキャリア指導を行うとともに，長年，本学のキャリアセンターとの共同で就職ガイダンスを開催してきたほか，就職相談会や就職セミナー等も開くなど，留学生に特化したキャリア教育を行ってきた.しかし，企業連携を含む連携体制が整っておらず，学内外の教育リソースを十分活用しきれずにいた.また，留学生が企業関係者と接する機会がなかったため，日本の企業文化理解や日本企業で働くイメージ作りが十分できなかったという課題があった.

そこで，本プログラムにおいては，学部生のうち，特に低学年の学生に対しては，本学で開講されている「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」のいずれかの科目を履修させ，履修できない大学院生等に対しては，国際交流センターでこれらと関連する内容のキャリア教育を行う.これにより，本格的な就職活動に入る前の段階から，留学生が自己の特性を知り，仕事に対する理解をもつことで，キャリアビジョンを描けるようにし，スムースに就職活動準備に取り掛かれるようにする.

また，「フューチャーサーチ」への参加も，本プログラムで積極的に勧め，地域人材養成センターと連携して，留学生の指導・支援にあたる.これにより，留学生が企業とともに主体的に地域のプロジェクトに関わることで，企業関係者との交流の機会がもてるだけでなく，県内の観光や産業への理解・関心，ひいては県内企業への就職へとつながることが期待できる.

また，学部 3 年生，修士 1 年生の留学生に向けては，自己分析や業界研究，企業研究などのセミナーやワークショップを行いエントリーシート作成等につなげるほか，筆記試験対策や面接対策といった実践対策も講じていく．

研究駆動トラックではメンターの役割を担う共同研究者を割り当て，その交流を通してキャリアについて真剣に考えられるような機会を提供する．以上が「キャリア教育」の概要である．

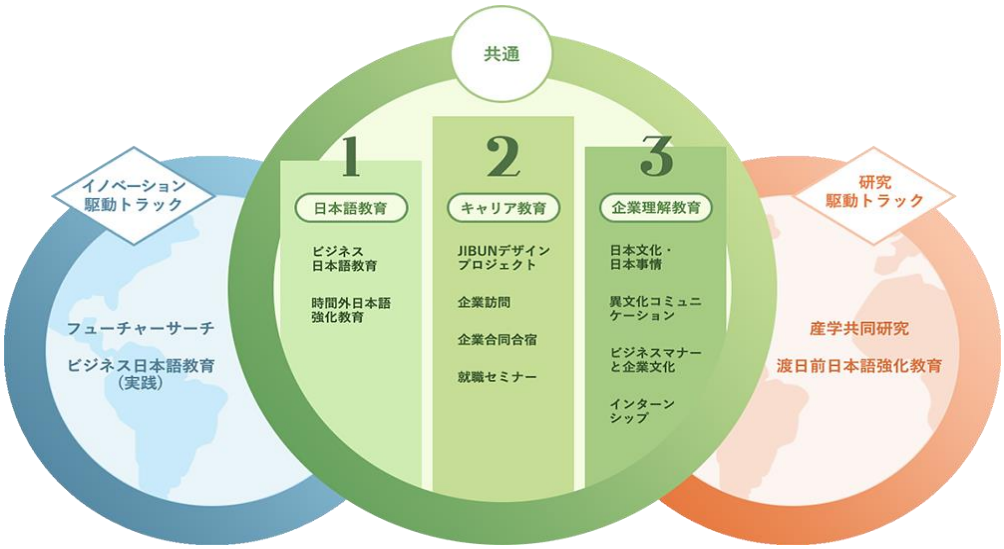
1.3.3　企業理解教育

3 つ目に「企業理解教育」についてであるが，日本企業で働く上で，日本の企業文化や日本人の価値観，日本の慣習に対する理解，及び留学生にとって日本文化という異文化を理解するマインドの獲得が肝要であると考える．

そのため，本プログラムにおいては，学部生のうち，特に低学年の学生に対しては，まず，日本文化理解や異文化理解に関する本学の共通教育科目である，「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」「Language and Communication」のいずれかを履修させる．これにより，留学生が在学中の早い時期に日本文化を理解することで，今後の大学生活やアルバイトなどで日本人との間で良好な人間関係を築き，より日本社会に適応していくことを期待している．

企業文化理解のためには，コンソーシアムの企業・団体から講師を派遣してもらい，日本の企業文化に関するセミナーのほか，卒業留学生から日本企業で働く様子について講演してもらう就職体験談会も開催し，留学生に対し日本の企業文化の理解を図る．このような企業担当者や企業で働く先輩から直接聞く話は，リアリティをもって留学生に理解されやすく，効果的な企業文化教育となると思われる．

留学生と企業との出会いの場という意味においては，インターンシップや企業見学会は，最たるものだといえる．令和 3 年度は，新型コロナウイルス感染対策に最大限の配慮をしながら，コンソーシアム加入企業からの協力を得て，企業見学会を着実に実施する．以上が「企業理解教育」の概要である．



2　令和 3 年度の取組状況

本章では，令和 2 年度に行った活動について具体的に述べる．まず，プログラムのスタートアップにあたり行った，　コンソーシアムの締結，シンポジウムの開催，広報媒体の作成について述べる．その後，プログラムの柱である「日本語教育」「企業理解教育」「キャリア教育」において行った活動をそれぞれ具体的に報告する．

2.1　プログラムの3本の柱に基づく主要な活動

本節では，山梨留学生就職促進プログラムの3本の柱である「日本語教育」「キャリア教育」「企業理解教育」についてその活動と成果を報告する.

2.1.1　日本語教育

2.1.1.1　初級日本語コースの開講

本項は，研究駆動トラックに所属する学生を対象に行った入門・初級日本語教育について，令和3年度における報告を行う.

令和3年度は研究駆動トラックにおいて，日本語の学習経験がまったくない学生を対象とし，ビジネス日本語を学習するための土台として日本語の基礎を学習する機会を提供する入門課程として，”intensive normal”，“intensive rapid”，“intensive online”の3種類のコースを用意した.

”intensive normal”は国内に滞在している学生を対象に12月から3月までの4ヶ月を使用して，入門前半を修了し日本語能力検定N5レベルの日本語力を取得することを目標としたコースで週2日，90分×6コマの授業を開講した.

“intensive rapid” についても，国内に滞在している学生を対象としたもので，12月から3月までの4ヶ月を使用して,入門を修了し日本語能力検定N4レベルの日本語力を取得することを目標としたコースで週2日，90分×6コマの授業を開講した.開講時間の総量は”intensive normal”と変わらないが，進度を1.5倍としているため”rapid”コースとなっている.

“intensive online”については本学入学前でまだ来日していない学生を対象としたもので，8月から10月と1月から3月までの3ヶ月を使用して,週6日,90分×12コマの授業を開講した. これらのコースはすべて，日本語能力検定に合格するための基本的な文法項目の理解と，ビジネス場面において求められるコミュニケーション能力の向上を目標として開講された.

さらに，上記のintensive入門課程に加えて，入門課程を修了した学生を対象にintensive初級コースを開講した.初級コースでは，入門コースで学んだ日本語の知識をプレゼンテーションや作文などの実践的な形で使用するために必要な技術を取得することを目標とした.コースは全15週にわたり，毎週90分×5コマで開講された.コースの最後には，指導教員などを招いた成果発表会を開催し，参加した9名の学生全員が日本語で10分程度のプレゼンテーションを行った.

日本語教育における本学の特色として，すべてのコースにおいて行った「日本語SAの導入」と「日本語能力検定模試の実施」の2点が挙げられる.以下，それらの特色について概要を述べる.

2.1.1.2　評価のための日本語能力検定模擬試験

各コース終了時に，学習者の到達度を確認するために日本語能力検定模擬試験を実施した. ” intensive normal”の学生はN5レベルを，“intensive rapid”，“intensive online”の学生はN4レベルの試験を受験した.結果としてN5レベルを受講した6名は全員合格点まで到達することができていた.N4レベルについては，テストを受験した18名のうち15名が合格点に到達することが出来た.また到達することの出来なかった4名についてもN5レベルの模試を追試として受験し，全員が合格点まで到達していることを確認した.intensive初級を受講した学生は，N3レベルの試験を受験し9名の学生全員が合格ラインとされる6割を超える得点を得ることができた.これらの模擬試験の結果をもとに,留学生は来日後直近で実施される日本語能力検定の本試験(2023年7月）を受験する予定である.

2.1.1.3　日本語能力検定（JLPT）対策コース

日本で就職活動をするうえで，その日本語能力を保証する資格として日本語能力検定（以下，JLPTとすることがある）が挙げられる.そこでJJLPT合格に特化したコースを開講した.イノベーション駆動トラックでは，日本

語能力検定N1に合格していない学生を対象とし，N1対策コースを7週にわたり開講した.毎週1コマ90分と限られた時間ではあったが,15名の学生が受講し,そのうち2名の学生が2021年7月の日本語能力試験を受験し，2 名ともが合格することができた.今回は日本語能力試験申し込み締切り直前の開講となったこともあり，受験に直結するプログラムとしての課題が残った.令和4年度はこの課題を克服するために，NI対策コースを学部の語学教育科目「日本語L&R」として開講し，15週に亘って指導を行うことができる体制を整備した.

研究駆動トラックでは，全学生を対象にN3対策コースを10週の計画で開講している.

現在のところ，2022年4月にN2対策コースへ切り替え，2022年7月のJLPTでN2に挑戦することを目標としている.

2.1.1.4　ビジネス日本語コース

JLPT N2相当レベル以上の日本語力を有するイノベーション駆動トラックの学生向けに，「ビジネス日本語」教育を全8回開講し，18名が参加した.ビジネス場面でよく用いられる敬語や挨拶表現，ビジネス文書の種類と特徴のほか，公益財団法人日本漢字能力検定協会の大森氏よりビジネス日本語能力テストについて学生たちに直接お話いただいた.BJTビジネス日本語能力テストの聴解・聴読解問題や読解問題にも取り組みながら，学生たちはビジネス場面で使用される語彙や表現を理解していった.「ビジネス日本語」について，プログラム以前より留学生の間で開講を願う声があり，令和3年度は試み的に8週に亘って実施したが，8回では不十分な感が否めなかった.今後は内容をさらに充実させ，体系的に教育が行えるよう学部開講科目として開講したいと思う.

2.1.1.5　ビジネスマナー講座

日本のビジネスマナーをその専門家の方より教えていただき体得することを目指した「ビジネスマナー講座」を開催した.令和 3 年度前期には，本プログラムのコンソ―シアム団体の一つである山梨県ニュービジネス協議会よりマナー講師を派遣していただき,開催した.ビジネスマナーの心得やコミュニケーションの大切さ,挨拶,名刺交換や電話応対の仕方などを実践的に楽しく丁寧に教えていただいた.

令和3年度後期は，外国人向け就職サイト「リュウカツ」を運営する株式会社オリジネーターのキャリアコンサルタントの須藤歩氏を講師として迎え，採用面接のほかインターシップ先でも必要となる，企業訪問のマナ―やメールの送り方，電話のかけ方を含むビジネスマナーの基本を教えていただいた.オンライン開催だったが，講師による説明だけでなく，学生同士のロールプレイで実践練習も行ったほか，オンライン面接の際の服装や表情，身振りや態度なども一人一人チェックしていただき，参加留学生にとって実用的な学びの機会となった.後期には，県内企業の社員研修担当の方からお客様対応の際のマナーを指導していただく予定だったが，コロナの感染拡大に伴い，中止となった.

2.1.1.6　ビジネス日本語コンテスト

11 月にはビジネス日本語コンテストをインターンシップ報告会と同時開催という形で実施した.ビジネス日本語コンテストでは，普段日本語教育に携わる教員からのみ評価を受けている留学生が，日本の企業で働く方々か

らフィードバックを得ることで，社会的にどのような能力が求められているのかを体験的に感じてもらうことを目的としたものである.評価は留学生が日本語で行ったインターンシップの報告プレゼンテーションに対してなされ，「流暢さ」「スライドの見やすさ」「独自性」「プレゼンテーションの内容」「マナー」の５つの観点から評価を受けた.

2.1.2　キャリア教育

2.1.2.1 「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」

本学では学部生向けの共通教育科目として「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」が開講されている.国際交流センターで行ってきたキャリア教育との連携を図るため，令和3年度より，本プログラムに参加する学部留学生には，「キャリアデザインⅠ」または「キャリアデザインⅡ」のいずれかを履修するよう指導を行った.「キャリアデザインⅠ」は，前期に開講され，自分の職業興味や価値観，他者から見た自己や，自分の過去の振り返りと将来のキャリアビジョンを考えることなどを通して自己理解を深める科目である.「キャリアデザインⅡ」は，後期に開講され，地域の様々な業界で活躍されている企業や官公庁の方々の仕事の内容を知ることにより，将来の職業選択の職業選択の幅を広げるとともに自身の可能性を広げることを目的とした科目である.日本での就職を考える本プログラムの留学生にとっては両者とも履修することが望ましいが，学科の必修科目や専門科目との兼ね合いから，どちらか一方を履修してもらうことにした.

2.1.2.2　就職ガイダンス＆ワークショップ

日本での就職活動に関する理解，及び，自分が関心ある業界や企業を調べるための業界研究，企業研究について，それぞれガイダンスとセミナーを行った.

令和3年度は，本学のキャリアセンターのキャリアアドバイザーによる就職ガイダンスを後期に開催し，17名の留学生が参加した.ガイダンスでは，日本の就職活動の流れや，学生時代に取り組んでおいた方がよいこと，キャリアセンターの活用法などについて説明をいただいた.また，令和 3 年度も山梨県「外国人留学生県内就職促進事業」の一環として，一般社団法人留学生支援ネットワーク事務局長の久保田学氏から，「外国人留学生就職＆インターンシップガイダンス」と題したお話をいただき，15名の留学生が参加した.さらに令和3年度は，日本で働きたい留学生や外国人向けの仕事情報を集めたウェブサイト「リュウカツ」を運営する株式会社オリジネーターから，キャリアコンサルタントを派遣していただき， エントリーシートの特徴について学ぶ中で業界研究，企業研究を行い，留学生が各々の関心のある業界や企業について調べ，調べたことをエントリーシートの志望動機等に反映させられるよう実践指導を行った.

2.1.2.3　就職実践対策－SPI－

令和2年度のSPI 対策講座では，一般社団法人日本国際化推進協会，及び明光ネットワークジャパンに講師を委託し，3日間に亘って，SPIの概要説明と，問題の解答・解説が行われた.受講生たちは，『留学生のための就職筆記試験の教科書』（日本能率協会マネジメントセンター）を用いてSPIの模擬試験を受け，受講生の正答率の低かった分野を中心に，丁寧な解説と解き方のポイント説明がされた.留学生個々からの質問も多く，就職活動における筆記試験対策の重要性を実感できる講座となった.

令和3年度のSPI対策講座も，一般社団法人日本国際化推進協会，及び明光ネットワークジャパンより講師を招き，就活生を対象に，SPIの概要説明と，問題の解答・解説が行われた.令和3年度は，令和2年度の内容に，適性検査の概要と実践も加わり，4日間の開催となった.本プログラムが，山梨県の他大学への寄与と波及効果も狙いとしてあることから，令和3年度は県内の周辺大学にも案内を出し，2名であるが他大学からの留学生の参加があった.

2.1.2.4　就職実践対策－面接－

令和 3 年度においても，本格的な就職活動が始まる時期に面接対策講座を実施した.一般社団法人日本国際化推進協会事務局長の田村一也氏を講師として招き，計 4 回開催した.第一回目は日本の採用面接の特徴や，よく聞かれる質問とその意図などをお話いただいた後，参加者一人一人が自己紹介を行い.より印象よく伝わる表現などを教わった.第二回目は,適性検査について講義を受けた後,実際に検査を体験した.第三回目と第四回目は,受講生が 2 グループに分かれ，事前に提出したエントリーシートを基に講師が面接官役となり，留学生一人一人が模擬面接に臨んだ.講師からの助言のほか，参加した他の留学生からもコメントをもらい，それぞれ本番の面接に向けた改善策を見出せたようである.

2.1.2.5　フューチャーサーチ

フューチャーサーチは，山梨県内大学，企業，団体，自治体ですすめている未来計画研究社(山梨大学では地域人材養成センター地域未来創造室)の「学生と社会をつなぐ Mirai プロジェクト[3]」の中の，山梨大学及び山梨県立大学の大学間連携における合同集中講義科目である.企業・団体等と学生の協働により地域における実際のプロジェクトに参加することを通じて，地域や自らの未来とその可能性について考え，それを活動に結び付けられる能力を養うことを目指す. 山梨県内の大学生が，「地元企業の魅力発見及び情報発信プロジェクト」「地元企業の新規事業創出・新商品開発プロジェクト」「地元自治体の地域資源活用やまちづくりのプロジェクト」などといったいくつかのプロジェクトから 1 つを選択して参加し，そのプロジェクトの企画・実施などを通じて地域が抱える問題を把握し，その解決の糸口を探ることができる思考方法，活動方法を実践的に学ぶ.あわせて，現代の市民社会，コミュニティの中に自分を位置づける能力を養うことで，未来の社会の変化に対し自分で自分を育てていける能力を養う.

令和 3 年度は，山梨大学からは 12 名の留学生が 8 つのプロジェクトに参加し，年間を通じて，企業・団体等と県内の他大学の学生とともに，地域の課題に取り組んでいる.5 月 25 日に行われた未来計画研究社の入社式には，フューチャーサーチに参加する企業，団体，自治体，及び県内の大学生が集った.　また，令和 3 年 9 月 27 日～10 月 7 日にかけて第 1 回進捗報告会，12 月 13～22 日にかけて第 2 回進捗報告会が開催され，各プロジェクトごとに，学生が中心となって活動状況や課題，今後の活動予定を報告した.令和 4 年 2 月 8 日の最終成果報告会では，各プロジェクトごとに学生が中心となってポスター発表を行い，留学生も日本人学生と共に自分たちのプロジェクトの成果を発表した.半年に及ぶプロジェクトの中で，企業の人や他大学の学生との交流や普段の生活では味わえない経験を通して，自分の適性や将来について考える きっかけとなったようである.

[3] Mirai プロジェクト ｜ やまなし未来計画 (miraiken.yamanashi.jp)参照

2.1.3　企業理解教育

2.1.3.1　企業文化セミナー

日本の企業文化や山梨県内企業の特徴の理解を図るため，コンソーシアム参画企業より講師を招き，会社の歴史や日本の企業の慣習や考え方などについてお話をいただくセミナーを開催した.

令和 3 年度は，コンソーシアムの一つである山梨県ニュービジネス協会会長の石坂正人氏が創業したインクカートリッジメーカーである JIT 株式会社より，お話をいただいた.使い終わった純正インクカートリッジを回収し，独自で開発した最新技術を用いてクリーニングやインクの充填をして再度利用できるようにした環境配慮型製品を作っており，ゴミや CO2 の排出抑制や環境循環型社会への取り組みの中で企業が成長してきた様子を知ることができた.「創業の精神」や「経営理念」をはじめ，企業方針や社内規定，具体的なマナーや注意事項，目標などが一冊にまとめあげられた『ジット魂』という冊子を社員一人一人が携帯し，毎朝の朝礼で唱和することにより心に落とし込み，日々の行動に変えていくという慣習には，日本の企業文化を見たと感じた留学生もいたようである.

また，金属加工メーカーである山陽精工株式会社からは，金属加工の中でも，光学関連の部品や，工作機械の基幹部品などの高い精度が求められる分野における製作の様子についてお話を伺った.難削材と呼ばれる各種素材にも積極的にチャレンジし，難削材でも高精度加工を追求するなど，失敗を恐れずお客様とともによりよいものを創っていく姿勢が，日本のモノづくりの根幹を成しているのだと学ぶことができた.いずれのセミナーも，留学生にとって，日本の伝統ある企業から直接お話を伺える貴重な体験となり，日本での就職意識を高められるよい機会となった.

2.1.3.2　企業見学会

企業見学会の主な目的は，留学生に働くイメージとともに，県内の優良企業や産業の理解の場を提供し，大学・大学院を卒業・終了後の自分のキャリアビジョンを描く上での参考にしてもらうことである.

令和２年度は２日に分け県内企業４社を見学したが，学部・学科の専攻外の企業も多かったという反省から，令和３年度は留学生の希望に近い企業を見学させたいと，８コース(４～５人)に分け見学する計画を立てた.昨年に続き，２回目の企業見学会を快諾してくださった企業では，より専門的にと，株式会社早野組ではリニア建設中の工事現場を見学させていただいたり，藤精機株式会社では，金属加工の実習をさせていただき，株式会社はくばくでは，工場見学と研究職社員のお話をお伺いする予定だった.留学生の春休みを利用し，企業見学会を実施するため，２月後半から３月中旬を予定していたが，新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大の影響を受け，来年度へ延期となった.

2.1.3.3　卒業留学生による就職体験相談

令和 3 年度前期は，23 名の留学生が参加し，大手複写機・複合機メーカーに技術者として勤めるマレーシア出身の先輩から，就職に向けて在学中に取り組んだことや現在の仕事の様子などを聞くことができた.社内で自分の英語力が表彰され，日本企業においても英語力が重視されてきていること，在学中はアルバイトやサークル活動，学内の国際交流活動など，勉強以外の課外活動にも積極的に取り組んだことが就職活動や現在の仕事でのコミュニケーションに役立っていることなどを，アドバイスとして伝えてくれた.令和 3 年度後期は，商用車メーカーで働くマレーシア出身の先輩から，就職活動の体験や外国人材として期待されていることなどを話してもらった.自身の就職活動の体験について，特にインターシップで実際に企業の様子を見たり，社員の方々から具体的な話を聞くことができたりしたことが，その企業を理解するのに役立ったということだった.また，エントリーシートや採用面接では，日本人と違った外国人ならではの自分の特色をアピールできるとよいというアドバイスがあった.今後は，自分の専門分野だけではなく，関連する他分野についても勉強する必要性を感じているということで，入社してからも学び続ける先輩の姿勢は，後輩の留学生たちにとって大

いに励みになったようである.

2.1.3.4　大学開講授業を利用した日本文化理解・異文化理解教育

留学生が日本の企業で日本人と働く上で，日本の習慣や日本人の価値観の理解，異文化理解は欠かせない.

学部生対象の全学共通科目である「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」では，正月やひな祭り，端午の節句，除夜の鐘などといった年中行事の謂れから，お辞儀や正座のもつ意味や日本人の結婚観や食生活，男女の呼称からみるジェンダー意識などまでをテーマとして扱っている.留学生と日本人学生がグループになり，留学生の国や日本人学生の故郷や家庭の事情を話し合うことを通じて，比較文化的視点や日本文化のもつ多層性を学び，互いの文化を尊重し合う気持ちを育む.”Language and Communication across Cultures”も，学部生対象の全学共通科目であり，言語・非言語コミュニケ―ションやカルチャーショック，ステレオタイプ，文化とアイデンティティの関連性などについて，留学生と日本人学生が英語による共同学習を行う.令和 3 年度から，本プログラムの留学生には，上記の科目のうちいずれか一科目以上を履修することを指導している.

2.1.3.5　ミニ合同企業ガイダンス，山梨県主催 外国人留学生合同就職フェア

また， 7 月 16 日にベルクラシック甲府にて開催された，山梨県主催の「外国人留学生合同就職フェア」には，本プログラムの留学生 4 名が参加した.約 30 社の県内企業が集ったフロアの中を，自分の関心のある企業との出会いを求めてブースを回った.この就職フェアをきっかけとして，県内企業への興味が湧き，県内企業への就職を目指すようになった留学生や，就職が決まった留学生もおり，就職フェアの効果を感じている.

2.1.3.6　インターンシップ

夏季休暇を利用し，外国人留学生 25 名がインターンシップに参加した(県内企業 11 名 20 名，県外 2 社 3 名，オンライン 2 名).1 週間～1 か月の期間,実際の働く現場を体験し,業界研究や企業研究を行った.学科に応じて，それぞれの興味深いことや，就職を希望する分野の会社で研修を行うなど，実りあるものとなった.

インターンシップ参加に際し，日本のインターンシップの特徴や参加する意味などについてオリエンテーションを行ったほか，インターンシップ先へのエントリーシートの書き方指導や，企業訪問で必要なマナー講座を開き，インターシップ参加に向けた準備を行った.また，大学キャリアセンターのウェブページを主に利用し，キャリアディレクター，各学部インターンシップ担当，事務局との連携で，それぞれが留学生個々に対して具体的で細やかなサポートを行った. 山梨県では，インターンシップという言葉さえ知らない企業もあるなど，インターンシップの受入れが初めての企業も多く，また，企業の多くが郊外にあるため，留学生を受け入れていただくのに困難を極めたそのため，一社一社に対し，プログラムとインターンシップについて説明し，ご理解と興味をもっていただいた企業と留学生のマッチングを行った.コロナ禍において各企業には留学生のインターンシップを受け入れていただき，感謝している.就業体験を通じて，仕事や企業，業界，社会への理解を深めることができた上，今まで外国人採用がなかった企業側にも，留学生の採用を考えたいというお話をいただき，企業側にも留学生を理解していただく素晴らしい機会となった. .

2.1.3.7　インターンシップ報告会/ビジネス日本語コンテスト

11 月にベルクラシック甲府にてインターンシップ報告会を開催し，留学生 20 名，県内企業 10 社から 18 名，コンソーシアムから 4 名が参加した. インターンシップ報告はビジネス日本語コンテストを兼ねており，プレゼンテーション力，ユーモア，日本語の表現力などの観点から，参加した企業の代表者が審査を行った. インターンシップ報告では留学生から日本の企業文化を理解し，ビジネス日本語，ビジネスマナーについて習得できたことや，自身が企業の中にどのような形で貢献ができるかというヴィジョンなどについて報告があった. 昼食会では，食事を介して和気藹々とした雰囲気の中で，企業あるいはコンソーシアムの代表者からアドバイスをもらうなど大変有意義な機会となった. 学外の日本語母語話者，ひいては自分が志望する業界の企業関係者にインターンシップで学んだ成果を聞いてもらうことができたことで，日本語を使い，フォーマルな場で話すことについても自信を得ることができたと思われる. また参加企業にとっても日本の社会や文化に深く接している留学生の発表を聞くことで，日本認識の新たな視点と国際理解の場が得られる機会にもなったと思われる.

2.2　対企業「留学生雇用促進セミナー」の開催

６月２４日(木)に，山梨留学生就職促進プログラム・コンソーシアム(山梨大学・甲府市・一般社団法人山梨県ニュービジネス協議会・一般社団法人山梨県情報通信業協会・一般社団法人山梨県機械電子工業会・山梨県中小企業団体中央会)主催，ジェトロ山梨共催による「外国人留学生雇用促進セミナー」を開催した. 本セミナーは甲府キャンパス大村記念ホールとオンラインで同時に開催され，主に県内企業を中心に 33 社 63 名が参加した. セミナーでは，まず，ジェトロスペシャリスト高梨洋一氏（株式会社ヨンイチ代表取締役社長）から「企業の未来を高度外国人材とともに」と題したご講演をいただいた. その後，コンソーシアム参画団体それぞれからご登壇いただいたパネルディスカッションを通じて県内企業の留学生雇用の現状や課題を討議することで，留学生雇用の経験のない県内企業に留学生雇用に対する具体的なイメージを提供した.

９月１５日(水)に，山梨留学生就職促進プログラム・コンソーシアム主催，ジェトロ山梨共催による，２回目の「外国人留学生雇用促進セミナー」をオンラインで開催し，県内企業１６社１９名が参加した.

第一部では，小口隆夫先生(行政書士・ジェトロ高度外国人材スペシャリスト)より，就労ビザや帰化等の法務手続きについてご講演いただいた. 第二部では，丹澤仁先生(行政書士・山梨県外国人材企業相談センターでもご

活躍)に，座談会形式で参加者からの質問に答えてもらう場を設けた.その中で，コンソーシアムの県の国際戦略グループの担当者から，補助金についてご紹介をいただいたり，市の雇用創生課から就職ガイダンスのご案内をいただくなど，留学生採用の手続き上，有益な情報を提供した.

2.3　プログラム事業継続に向けた取り組み

本節では，プログラム継続のために現在行っている活動として「留学生就職促進教育認定プログラム」のへの申請と基金の設立を挙げる.

2.3.1　留学生就職促進教育プログラムの申請

各大学が提供しているプログラムに対し，留学生の就職のサポートに適しているものであると文部科学省から認定と補助が受けられるプログラムとして「留学生就職促進教育プログラム認定制度」への公募が発表されたため，本学もそれに応募し採択を受けた.

応募にあたり，現在提供しているプログラムを再度整理し，より充実させた方がよいと思われる授業や講座，セミナー等を拡充し，留学生がそれらのコースを必要十分な量・質で受講していることを大学側が認定するためにポイント制度を導入した.このポイント制度では，各授業にその負担に応じて学生が取得できるポイントを指定し，学生はそれらの授業・講演を受講することでポイントを取得し，一定の水準に達すると「留学生就職促進教育プログラム」を修了したと認定される.

2.3.2　コンソーシアム企業との継続的な連携環境の整備

「山梨留学生就職促進プログラム」の事業が終了する 2023 年 3 月以降も，構築したコンソーシアムとの連携・大学において作成した教育カリキュラムを維持するために必要となる資金の確保のために「山梨留学生就職応援プロジェクト（仮）」として企業から金銭的な協力を得られるような体制を整備する準備を開始した.体制の整備にあたり，企業に大学側が提供できるようなプログラムの整備，および「留学生就職促進教育プログラム認定制度」を説明するための資料が必要であることを確認し，その資料として教育プログラムの内容を紹介するような新たなパンフレット，及び本学の留学生の学問領域や県内外で活躍する卒業留学生の様子を紹介したパンフレットを作成した.

2.3.3　中間報告会を兼ねた外部評価委員会の開催

2022 年 2 月に本事業の取り組みについて，外部評価委員 5 名を招聘し評価を受けた.委員は本事業にかかわる分野から，適切に評価ができる経験を持つ人物を招聘した.委員 A は山梨県内の商工会議所において理事を務める人物に依頼した.これは，留学生を採用する立場である県内中小企業からの意見を事業に取り入れることを意図したものである.委員 B は留学生を採用している企業の取締役に依頼した.これは，留学生採用実績のある企業からみて，留学生の育成プログラムが適切かを評価してもらうことを意図したものである.委員 C は本事業の専門委員に依頼した.委員 C にはかねてよりプログラム事業についてもアドバイスを受けており，それらのアドバイスが適切に反映されたプログラムになっているかを評価してもらうことを意図したものである.委員 D，E は他の大学で留学生就職促進プログラムの運営に携わった教員に依頼した.これは，実際に留学生就職プログラムを運営した経験をもとに改善点などを指導してもらうことを意図したものである.評価項目は，「プログラム運営」「日本語教育」「キャリア教育」「インターンシップ」「企業理解教育」の 5 つで，それぞれについて申請時に作成した 13 の評価観点から目標を達成しているかの評価を受けた.評価には【４：計画を上回って実施できた】【３：計画を十分に実施できた】【２：計画を十分に実施できていない】【１：計画を実施できていない】の 4 段階のスケールを使用し，その評価とともに，活動の「優れた点」「改善を要する点」の 2 点を

記述頂いた.詳細は，「令和3年度山梨留学生就職促進プログラム外部評価委員会報告書」を参照されたい.本節ではその概要のみ以下に示す.

2.3.3.1　プログラム運営に関する評価

	委員A 〈経済団体〉	委員B 〈企業〉	委員C 〈専門委員〉	委員D 〈大学〉	委員E 〈大学〉
評価	3	3	3	3	3

各委員からの評価はすべて「3」で，プログラム運営は「計画を十分に達成できている」と評価された.その中でも特に，学生の特性にあわせて2つのトラックを設置している点，大学内の各部局において，役割分担を明確にしている点が優れている点として評価された.しかしながら，コンソーシアム内の企業や県，市などの自治体との連携をより活発に行っていく必要があるとの指摘があった.

2.3.3.2　日本語教育

	委員A 〈経済団体〉	委員B 〈企業〉	委員C 〈専門委員〉	委員D 〈大学〉	委員E 〈大学〉
評価	3	3	4	4	3

各委員からの評価は「4」が2名，「3」が3名と，「計画を十分に達成できている」あるいは「計画を上回って達成できている」と評価された.その中でも特に，日本語未習の学生を対象に渡日前に短期集中の日本語プログラムを提供している点，そして，学習者のレベルに応じてビジネス日本語教育が多様な形で展開されている点が優れている点として評価された.しかしながら，山梨県での就職に結びつくような，山梨県での生活や文化に直結するような教材あるいは授業の開発が必要なのではないかとの指摘があった.

2.3.3.3 キャリア教育

	委員A 〈経済団体〉	委員B 〈企業〉	委員C 〈専門委員〉	委員D 〈大学〉	委員E 〈大学〉
評価	4	4	3	3	4

各委員からの評価は「4」が3名，「3」が2名と「計画を十分に達成できている」あるいは「計画を上回って達成できている」と評価された.その中でも特に，「フューチャーサーチ」という科目の中で，県内企業と連携し，1つのプロジェクトを遂行する機会を提供している点が非常に高く評価された.これは，企業と留学生の結び付きを強めるだけでなく，日本人学生と留学生が協同し，作業をする機会が提供できていること，さらに県内他大学の学生にも開放されている科目であることから，他大学の学生と交流する機会を提供できている点も評価された.その一方で，このような取り組みは，山梨県内の中小企業への就業のみに繋がりうるものであり，学生が首都圏への就職を望む場合の支援をより拡大していく必要があるとの指摘があった.

2.3.3.4 インターンシップ

	委員A 〈経済団体〉	委員B 〈企業〉	委員C 〈専門委員〉	委員D 〈大学〉	委員E 〈大学〉
評価	4	3	3	2	4

各委員からの評価は「4」が2名，「3」が2名，「2」が1名と，おおむね「計画を十分に達成できている」あるいは「計画を上回って達成できている」と評価された一方で，「計画の達成に不十分な点がある」とする評価もあった.評価された点としては，大学がコーディネータとしてインターンの仲介者となり，学生と企業を結びつけ，インターン実施率96%（14件25人）を達成した点が挙げられる.これは，コロナ禍において多くのイ

ンターンシップが中止になる中で，非常に素晴らしい数字であるとの評価を受けた.その一方で，インターンの実施形態が，就業体験型が大半を占めており，その実施形態に多様性がない点が改善点として指摘された.

2.3.3.5 企業理解教育

	委員 A 〈経済団体〉	委員 B 〈企業〉	委員 C 〈専門委員〉	委員 D 〈大学〉	委員 E 〈大学〉
評価	3	3	3	2	3

各委員からの評価は「3」が 4 名，「2」が 1 名と，おおむね「計画を十分に達成できている」と評価された一方で，「計画の達成に不十分な点がある」とする評価もあった.評価された点としては，企業から講師を招いた企業理解セミナーや OBOG を招いた講演会の開催など，多種多様な形で日本企業の風土を理解する機会を提供している点が挙げられた.その一方で，留学生に対し，中小企業に就職することの魅力を伝える方法をより充実させる必要や，自治体と連携した支援方法を考えていく必要性が指摘された.

３．その他の活動

（１）学長主催山梨大学外国人留学生懇談会

令和3年12月21日(火)、甲府キャンパスにおいて、本学の留学生・外国人研究者とそのご家族、外国人留学生後援会および山梨大学留学生を支える会の方々、教職員など約100名が参加し、「学長主催 山梨大学外国人留学生との懇談会」が開催されました。

この懇談会は、本学で学ぶ留学生や研究者、留学生支援組織の方々と教職員が一堂に会し、懇談を通じて相互理解を深める目的で毎年開催されているものです。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大により中止しましたが、今年度は、二年ぶりに開催することができました。

冒頭、主催者である島田眞路学長が「現在、本学では、各国から262人の留学生を受け入れていますが、60人ほどが未だ母国でオンライン授業を受けている状況です。早く留学生全員が来日し、キャンパスに本来の活気が戻ることを願っています」と挨拶しました。

また、日ごろから本学の留学生をご支援いただいており、今年設立20周年を迎えた「支える会」へ敬意を表し、感謝状を贈りました。「支える会」の武藤淳子代表から、「「支える会」は、留学生の山梨での生活面や日本語学習を支援する活動を20年間続けています。支援が必要なときは、「支える会」のことを思い出してください」と心温まるお言葉をいただきました。

懇談会の後半で行われたビンゴゲームでは、大いに盛り上がり、参加者同士の交流が深まる楽しいひと時となりました。

挨拶する島田学長

歓談する島田学長と留学生

ビンゴ大会の様子

集合写真

（２）留学生後援会による生活支援給付金の支給

山梨大学外国人留学生後援会は、本学の外国人留学生に対し経済的支援を行うとともに、留学生と地域社会・本学教職員との交流を行い、あわせて本学の派遣留学生の不測の事態にも対処すること等により、本学の留学生交流の一層の促進を図ることを目的として設立された組織です。

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大により生活が困窮する外国人留学生への緊急支援給付金「生活支援給付金」の支給を行いました。今年度は、既に入学し仕事も辞めてしまったが新型コロナウイルス感染症拡大により渡日することができないため奨学金が支給されないという事実を踏ま

え、未入国者にも対象を拡大し、申請のあった20名に対して、8月に現金5万円を支給しました。

（３）新規入国者の自主隔離費用の補助

新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として政府が実施する水際対策により、渡日後に宿泊施設での隔離期間を義務付けられた外国人留学生に対して、甲府市ふるさと応援補助金により原則１人６万円の宿泊費補助を行いました。予期せぬ出費を必要とした学生にとって、甲府市への信頼及び親近感が生まれ、コロナ禍の後の積極的な交流についての確かな足掛かりを作ることができました。

Ⅳ.　国際化教育

国際的な環境で勉強できるキャンパスの整備に向け、国際交流センターでは「G-フィロス（グローバル共創学習室）」を中心に、日本人学生と外国人留学生が共に学び、異文化理解・交流を行う機会を数多く設けています。

G-フィロス

グローバル共創学習室『G-フィロス』とは、国際的なコミュニケーションを育成する場として、異文化理解や語学学習を通じ、学生間で互いに学び合う学習環境のことです。日常的には、英語に限らず語学の勉強を学生同士でお互いにサポートするようなサービスを提供し、それ以外にも異文化交流イベントを開催するなどして、学生の学び合う環境を整えています。

1. G-フィロス（グローバル共創学習室）と英語学習・留学サポート
― SA(Student Assistants)による語学サポート・異文化理解と アドバイザーによる英語学習・留学サポート ―

江崎　哲也

1. はじめに

本学では「山梨大学グローバル化に関する基本方針」に基づき、従前の留学生センターの役割を 2014 年度より拡大し、さまざまな国際交流支援活動を通じて本学のグローバル化を総合的に活性化することをミッションとする国際交流センターを設置した。グローバル人材育成に向けての取り組みの一つとして、国際交流センターでは、G-フィロス（グローバル共創学習室）の管理・運営[4]と、英語学習・留学アドバイザー[5]による学生の英語学習と海外留学のサポートを行っている。ここでは、新型コロナウィルス感染症の影響が拡大してさまざまな制約がある中、全ての取り組みをオンラインに切り替える一方で、感染症の影響が少なくなった際には対面で行った 2021 年度の G-フィロス（グローバル共創学習室）の取り組みと英語学習・留学サポートについて報告する。

2. G-フィロス（グローバル共創学習室）関連の活動

本学工学部では、共創学習支援室「フィロス[6]」が学科の壁を越えた学習交流を促進する特色のある取組みを行っている。しかし、2014 年度前期まで本学には外国語や自国の文化をお互いに教えあったり共有したりする場（旧留学生センターアネックス、国際交流スペース等）はあっても、なかなか活用されなかった。そこで、国際交流スペース（本学甲府キャンパス B-1 号館 221、Y 号館２階）において、国際交流に高い意欲をもち、責任感のある留学生と日本語を母語とする学生を SA(Student Assistant　以下 SA)として配置し、さらに、英字新聞、TOEIC・TOEFL 関連書籍、日本語学習教材、日英語の DVD を配架して日本人学生及び留学生の語学学習の支援を行うとともに、気軽に異文化交流ができる国際的な共創学習支援環境を提供することとした。しかしながら、2021 年度は新型コロナウィルス感染症の影響が拡大したため、英字新聞の配架をやめ、図書の貸し出しも中止した。表１に G-フィロスの取り組み一覧を示すが、前述のように 2021 年度は種々の制約があったため、規模を縮小し、全てオンラインで提供することを基本としつつも、感染症の影響が少なくなった際には対面で行った（表１右端参照）。

---

[4]平成 26 年度戦略・公募プロジェクトー教育関連プロジェクトー「グローバル人材育成プログラムの実施に向けた国際交流環境整備」（プロジェクト代表者：茅 暁陽）の支援を受けている。本プロジェクトでは、ほかに協定校への海外インターンシップ付き短期留学プログラムの企画と試験的実施、協定校からの学生交流団の受入れを行った。

[5]平成 26 年度・27 年度国立大学法人運営費交付金特別経費「『学長のリーダーシップの発揮』を更に高めるための特別措置枠」による。

[6] http://www.eng.yamanashi.ac.jp/risu/kyousou/index.html

表１　G-フィロス主な取り組み一覧

	取り組み名	1回あたり開催時間	頻度/週	1回あたりの配置人数	2021年度実施状況
①	イングリッシュ・カフェ (2～3会場で実施。)	40分	8～10	アドバイザー１+SA2/	オンライン(Zoomまたは oVice) で、且つ１セッション５名程度までという人数制限をして実施。
				本学英語教員1(週3回)	全てオンライン(Zoom)
②	イングリッシュ・サポート	60～90分	10～12	アドバイザー１+SA2	オンラインで、且つ１セッション30分とし、各セッション５名までという人数制限をして実施。感染症の影響が少なくなった際には対面。
③	英語学習・留学個別相談	30分	時期による	アドバイザー１～２	オンラインで実施
④	TOEIC対策等講座	70分	2～5	アドバイザー１	オンラインで実施
⑤	全学共通科目「総合英語」履修者対象講座	60～70分	4	アドバイザー１	オンラインで実施
⑥	教職員向けイングリッシュ・セッション （教職員向け英語講座を含む)	40分-60分	2または1	アドバイザー１(+SA2)	実施せず
⑦	医学部Cにおける英語学習サポート	240分	1	アドバイザー１	実施せず（イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポートがオンラインに切り替わったため。)
⑧	諸外国語カフェ	60～90分	3～5	SA1、または外部講師(卒業生ボランティア)	オンライン(Zoomまたは oVice) で実施
⑨	日本語学習サポート	60～90分	25	SA1	オンライン(Zoomまたは oVice) で実施

3. 英語サポートSA・英語学習･留学アドバイザーの活動

英語学習・留学アドバイザーは、前掲の表１の①～⑦に関わっているが、ここでは利用者が多い①～④について説明する。利用者数については表２を参照のこと。

3.1 イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポート

上記①と②では、英語が話せるSAと英語学習アドバイザー、または本学英語教員が、楽しく話すことを目的としたイングリッシュ・カフェを毎日昼休みに開催した。また、夕方には、さまざまな英語のサポートを行った。2021年度のイングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポート利用者数は、延べ1,948人であったが、これは１セッション５名までという人数制限をして実施したこと、いわゆる「オンライン疲れ」があったことによるものと考えられる。

3.2 英語学習・留学個別相談、プライベート英語レッスン

上記③の英語学習・留学個別相談、プライベート英語レッスンは、学生が自律的に英語学習ができるようになることを目的に、本学が 2019 年度から雇用した英語学習・留学アドバイザーが常時 2 名態勢で行った。1 回 30 分の枠で、英語学習や留学に関する目標設定や学習計画、動機付け、学習の継続のために必要なことなどについて個別に（1 対 1 で）アドバイスしたり、英語のレッスンをしたりしている。その相談/レッスン内容は、TOEIC®テストや TOEFL®テスト、IELTS などの各種試験対策から、スピーキングやライティングといった特定の英語スキルの向上について、留学に向けてなど多岐に渡っている。2021 年度の相談件数は、延べ 1,385 件であった。件数は 2020 年度比で 11%増、稼働率（予約枠数に対して何枠相談/レッスンが行われたか）は 2018 年度が約 57.6%だったのに対して、2019 年度は 73.1%、2020 年度には 94.7%、2021 年度には 96.5%なっており、非常に効率的に英語学習・留学個別相談、プライベート英語レッスンが行われるようになってきたことがわかる。これは、英語学習アドバイザーが学生に対して継続して英語を学習することの重要性を説き続けた結果でもあるが、2019 年度 2 月までは、予約も相談/レッスンも全て対面で行っていたものを、予約はインターネット上でできるようにし、相談/レッスンは全てオンライン（Zoom を使用）に切り替えたことによるところも大きいと思われる。

3.3 TOEIC®等対策講座

上記④の TOEIC®対策講座は、前期/後期に 1 回 70 分で計 8 回行っており、2021 年度は前期に 2 講座、後期にも 2 講座開講した。本講座受講によって単位を得られることはないが、講座は TOEIC® L&R を初めて受験する学生向けのものから具体的なスコアを目標にしたものまで取り揃えており、できるだけ多くの学生が講座を受講できるようにした。2021 年度の対策講座受講者は、延べ 473 人であった。それ以外にもセミナーを設け（表３参照）、学生が興味を持ち、継続的に英語の学習ができる環境を整えた。

3.4 バーチャル自習室

2022 年 1 月 24 日～3 月 31 日にカスタマイズ可能なバーチャル空間「oVice(https://ovice.in/ja/)」を用いてバーチャル自習室を開設した（図 1 参照）。基本的には語学学習のスペースとして提供したが、語学学習以外の利用も可能とし、随時小さなイベントも行ったところ、この約 2 か月で 4,339 件のアクセスがあった。友人同士で時間を決めて自習室を利用したり、一人で黙々と勉強をしたりなど、さまざまな利用形態があり、コロナ禍において一人ではなく他者の存在を感じながら勉強するスタイルを選択する学生が多いことがうかがえた。

3.5 山梨県立大学学生へのサービス提供

2019 年 5 月に山梨県、山梨大学、山梨県立大学の三者間による連携協定が締結されたことを受け、2021 年度は山梨県立大学の学生にも、G-フィロスのサービスの一部を提供した。利用者数は少なかったものの、本学の学生もよい刺激を受けたようである。

表２　G-フィロス各種サービスの利用者数推移

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">取り組み名</th><th colspan="6">延べ利用者</th></tr>
<tr><th>2016
年度</th><th>2017
年度</th><th>2018
年度</th><th>2019
年度</th><th>2020
年度[7]</th><th>2021
年度</th></tr>
<tr><td>①</td><td>イングリッシュ・カフェ
（2 会場で実施。）</td><td rowspan="2">2,317</td><td rowspan="2">2,490</td><td rowspan="2">2,884</td><td rowspan="2">3,906</td><td rowspan="2">2,383</td><td rowspan="2">1,948</td></tr>
<tr><td>②</td><td>イングリッシュ・サポート</td></tr>
</table>

[7] 2022 年 3 月発行の年報（2020 年度版）の数字が一部間違っておりましたので、ここで訂正させていただきます。

③	英語学習・留学個別相談	1,625	1,104	1,382	1,111	1,250	1,385
④	TOEIC 対策等講座	621	881	664	444	467	473
⑤	全学共通科目「総合英語」履修者対象講座	635	432	486	647	394	530
⑥	教職員向けイングリッシュ・セッション	239	80	27	10	N/A	N/A
⑦	医学部 C における英語学習サポート	156	223	196	111	N/A	N/A
⑧	諸外国語カフェ	242	215	167	179	N/A	49
⑨	日本語学習サポート	593	640	522	639	84	220
⑩	英語自律学習ポイントカード	481	591	604	703	426	417
⑪	オンライン自習室	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	4,339

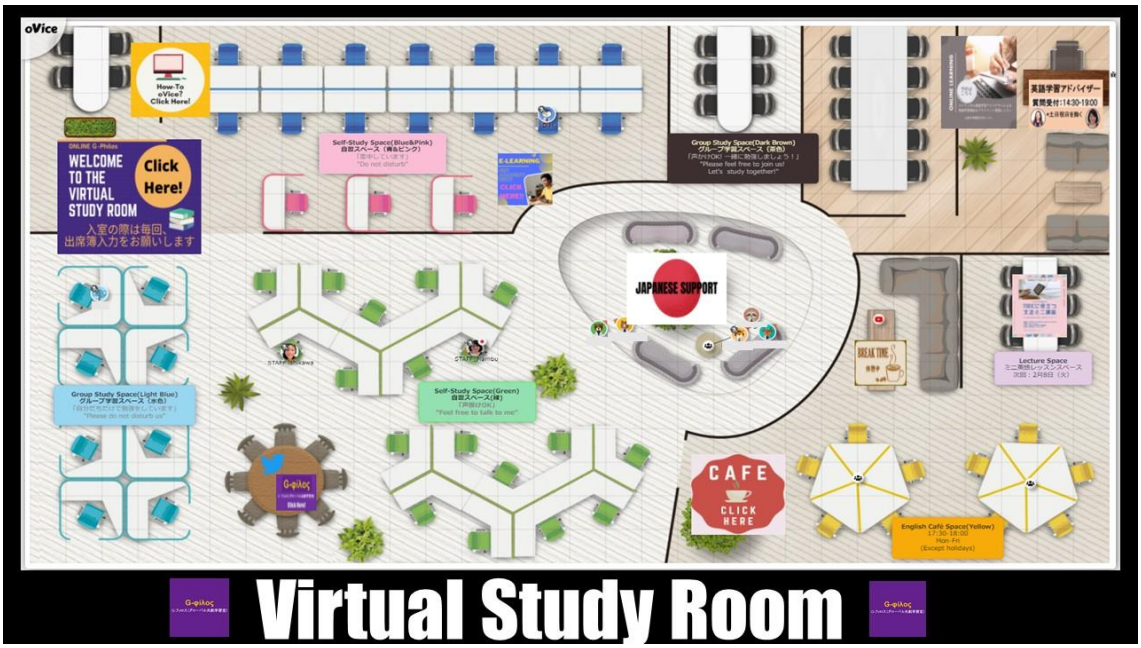


図１ G-フィロスバーチャル自習室

４．G-フィロス関連イベント

G-フィロスでは硬軟織り交ぜて各種のイベントを行っている。表３に 2021 年度に行ったイベントとその参加人数を示す。イベントの主なテーマは TOEIC®、異文化交流、留学の３つである。いずれのイベントも大変好評であり、イベントをきっかけに G-フィロスを利用し始める学生もかなり存在している。2021 年度は前年度に引き続き、本学に入学予定の高校生を対象にした TOEIC セミナーを行い、入学前から英語学習に取り組むことの重要性を伝えた。参加した高校生にとっては、本学の英語学習サポートの手厚さを知ってもらう好機となったようである。

表３　2021 年度 G-フィロス関連イベント

日付	時間	場所	イベント名	参加人数
4月21日	17:00-18:30	オンライン	スタートダッシュTOEICセミナー	33
7月2日	18:00-19:00	オンライン	超直前！TOEIC®L&R対策セミナー	27
8月4日	12:30-14:00	オンライン	Mongolian Café	29
8月10-12日	各回12:30-13:00	オンライン	バイリンガルカフェ	18
9月28-30日	各回12:30-13:00	オンライン	留学生とバーチャルトラベル	33
10月1日	17:30-18:30	オンライン	Hungary Café	10
10月20日	17:00-18:00	オンライン	英語スピーキングセミナー	9
10月27日	17:00-18:00	オンライン	英語ライティングセミナー	7
12月14日	18:00-19:30	工業会館3階	Holiday Party	60
2月1-2日	各回15:00-16:00	オンライン	高校生TOEICセミナー	13

2月8,10,15,17日	各回12:15-13:00	オンライン	TOEICに役立つ文法ミニ講座	26
3月3-4日	各回15:00-16:00	オンライン	高校生TOEICセミナー	24
3月9,16日	各回12:15-13:00	オンライン	英語スピーキングミニレッスン	17
3月25日	18:30-19:00	オンライン	ハンガリー交流会	10

５.「英語自律学習ポイントカード」の配布と TOEIC/TOEFL 無料受験資格付与

英語を自律的に学習できるようにするため、積極的に上記英語関連サポートや講座に参加した学生に特典として TOEIC® IP L&R/S&W、または TOEFL ITP®の受験料のうち 3,000 円をキャッシュ・バックするという取り組みを行っている。それを管理するために「英語自律学習ポイントカード」を作成し、希望者に配布した。

表２の最下段に示すように、2019 年度まで「英語自律学習ポイントカード」発行枚数は徐々に増え続け、2019 年度には 703 枚に達した。しかしながら、2021 年度は種々の取り組みの規模をかなり縮小せざるを得ない状況であったため、発行枚数は 417 枚に止まった。

６．まとめ

グローバル人材の育成に向けて、国際交流センターでは、外国語力、海外体験、異文化と関わる主体性と積極性、自律的語学学習について 2014 年度より継続的に取り組んできた。この中で本学が 2019 年度から雇用した語学習・留学アドバイザーの活動は、特に本学学生の英語学習の支えとなり、それが TOEIC 等のスコアの伸びや、海外留学者数の増加に大きく貢献してきた。G-フィロス利用者数（イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポート）は、2015 年度に比して 2017 年度に 40%以上増加しているため、すでに目標を達成しているが、2021 年度は新型コロナウィルス感染症の影響が拡大したため、種々の取り組みを大幅に縮小せざるを得なかった。2022 年度以降も継続して留学生 SA、日本語 SA、英語学習・留学アドバイザー、英語教員と共に G-フィロスの活性化を図る必要がある。

２．イベント・活動報告

2021 年度に G フィロスにて実施した、イベントや活動の詳細を以下に報告します。

１．交流イベント

主に文化紹介シリーズのイベントや、毎年恒例の行事になりつつあるホリデーパーティーなど、誰もが気軽に参加し異文化交流できるイベントは１年を通して開催しています。

（1）English Café と English Support がスタート：

前期：2021 年 4 月 13 日（火）～2021 年 7 月 21 日(水)、後期：2021 年 10 月 4 日(月)～2022 年 1 月 21 日(金)

前期の English Café と English Support は全てオンラインで開始し、途中から実施形式を Zoom ミーティングからバーチャル空間 oVice（オヴィス）に切替えて、参加学生たちを飽きさせない工夫をしました。

後期の 12 月からは English Support のみ対面形式に戻すことができ、参加学生や留学生の英語 SA（スチューデントアシスタント）も直接会えたことにとても喜んでいました。

昨年に続きオンラインセッション中心の開催となったことで通信トラブル、細かいニュアンスや表情の伝わりづらさはありましたが、対面形式だと参加できなかった医学部キャンパスの学生からはとても好評でした。

(2) Mongolian Café を開催：2021 年 8 月 4 日（水）

「Monglian Café」（オンライン）が開催されました。第 1 部のモンゴル人留学生による文化紹介では、山梨大学関係者が約 15 名、第 2 部の現地モンゴルの高校生たちとの交流では、約 20 名が参加しました。事前配布したモンゴル産サジージュースを同時に作って乾杯し、モンゴル語を全員で発声するなどオンラインイベントでしたが一体感を感じられました。参加者からは、「留学生のプレゼンはとても面白かったので、また参加したいです」「モンゴルの学生ともっと話したかったです」「アクティビティやジュースの試飲など楽しめましたし、30 分のプレゼンもあっという間に感じました」「今まで遠い国だと思っていたモンゴルを少し身近に感じました」等の感想が寄せられました。今後も留学生による異文化紹介や交流イベントを企画していきたいと思います。

(3) 「留学生とバーチャルトラベル」を開催：2021 年 9 月 28 日(火)～9 月 30 日(木)

2021 年 9 月 28 日～30 日の 3 日間で、梨大留学生による母国紹介イベントをオンラインで開催しました。タイ、香港、マダガスカルについて、それぞれ現地目線でツアーガイド風？なプレゼンテーションが行われました。公用語、通貨、日本からの飛行機代、その地域ならではの珍しい動植物、お祭り、ローカルフードなどが紹介され、旅気分で楽しめる内容だったと多くの参加者から感想が寄せられました。

(4) 「Hungary Café」を開催：2021 年 10 月 1 日(金)

現地ハンガリーとオンラインで繋がり、山梨大学元留学生による『ハンガリーカフェ』を開催しました。第１部ではハンガリーの文化紹介が行われ、第２部ではハンガリーの日本語学校で学んでいるハンガリー人とペアを組んで交流会をしました。交流会の途中では、フレーバー入りのストロー(ハンガリー産)を使って牛乳を試飲する時間もあり、わずかな時間でしたが打ち解けて両国を身近に感じられた時間でした。

(5) Holiday Party を開催：2021 年 12 月 14 日(火)

毎年恒例のホリデーパーティーを今年は対面形式で開催し、留学生や日本人学生、教職員ら約 60 名が参加し、以下内容にて実施いたしました。

●チーム対抗でオリンピック競技のジェスチャーゲーム

●イギリスとドイツから現地の年末年始の過ごし方をオンラインで紹介

（本学交流協定校であるオックスフォードブルックス大学とドレスデン工科大学の学生）

●パナマ出身留学生を中心に、全員で簡単なサルサダンス

多くの留学生や医学部キャンパスから来た学生が参加し、久々の再会や初めての対面を喜んでいる姿が窺えました。

(6) 「ハンガリー交流会」を開催：2022 年 3 月 25 日(金)

前回 10 月に開催し好評だった「Hungarian Café」に続き、第 2 弾として「ハンガリー交流会(オンライン)」を開催しました。英語＆日本語で時間を区切って交流し、15 分×15 分の 2 回セッションで小クループに分かれ両言語を使った会話を楽しみました。事前に参加者の興味･関心や語学レベルのヒアリングを行いグループ分けしたので、限られた時間の中でイベント当日はそれぞれの語学学習の目的やハンガリーと日本の文化、価値観、日常生活についてまで、話が広がっていました。参加者からは、「ハンガリーはあまり馴染みがなかったので、これから知っていきたいと思いました」「日本についてもっと知ってもらえるように、色々と勉強しようと思い

ます」「今後も海外の方と話す際は、日本と海外の認識の違い等を念頭に入れて会話をしていきたい」等の声がありましたので、今後もさまざまな国際交流イベントを企画していきたいと思います。

２．Student Assistants（SA）の活動

Student Assistants（SA）は、日本人学生及び留学生を短期雇用する形で運営しており、日本語・英語その他言語のサポートを行っているほか、前項で紹介した異文化交流イベントの際などに中心的役割を担っています。

以下に、日本語サポート SA と留学生 SA の 2 つの SA の活動について報告します。

(1)　日本語サポート SA

2020 年度は新型コロナウィルス感染症の影響が拡大している時期でもありましたので、留学生/日本語非母語話者学生に対する日本語サポートはほとんど行っておりませんでした。しかし、2021 年度は学期中に日本語サポート SA による「オンラインにほんごサポート」を行いました。参加した学生は研究等の合間に日本語会話を楽しんだり、レポートの日本語チェックを受けたりしたようです。

(2)　留学生 SA

留学生 SA は、イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポートを担当しています。イングリッシュ・カフェは昼休みの時間帯に開催しており、日本人・留学生問わず、英語学習を目的とした多くの学生が、昼休みを利用して気軽に留学生との会話・交流を楽しめる形態となっておりオンラインで行いました。イングリッシュ・サポートは、主にⅤ限目・Ⅵ限目の時間帯に行っており、令和 2 年度以降は会話セッション数を 3 枠設けて、オンラインでの交流の場を提供しました。

３．英語学習・留学アドバイザーによるサポート

英語学習･留学アドバイザーは､常時 2 名体制をとって学生の英語学習と海外留学のサポートを行っています。英語学習・留学に関して個別相談を受けるほか、先に紹介した留学生 SA のイングリッシュ・カフェやイングリッシュ・サポートを SA と共に運営しています。プロのアドバイザーの指導や相談を、本学学生であれば無料で受けることができるとあって好評で、導入した平成 26 年度以降、利用者は年々増加傾向にあり、安定的な運用を行っています。令和 3 年度は、プライベート英語レッスンもオンラインで実施したため、医学部キャンパスの学生も積極的に利用するようになりました。

その他に、令和 3 年度においてアドバイザーが主催するさまざまな英語学習イベントやセミナーについて以下に報告していきます。

(1)「スタートダッシュ TOEIC®L&R セミナー」を開催：2021 年 4 月 21 日(水)

本イベントはオンラインで実施されました。IIBC （TOEIC(R)実施団体)ご担当者様より、TOEIC(R)プログラムの活用事例等貴重なお話をいただきました。また､本学英語学習アドバイザーより､学習方法や国際交流センター

の英語学習サポートについて説明がありました。参加した学生からは、「TOEIC(R)の試験についてよく理解することができた。」「早速大学での様々な学習サポートを利用して頑張ろうと思った。」「英語学習のモチベーションが上がった！」といった声が聞かれ、それぞれにとって有意義なセミナーとなったようです。

(2)「超直前！TOEIC®L&R 対策セミナー」を開催：2021 年 7 月 2 日(金)

「超直前！TOEIC(R)L&R 対策セミナー」（オンライン）が開催し、約 30 名が参加しました。学内 TOEIC(R)L&R IP テスト前夜というタイミングもあって、例題を交えた実際の解き方や、要点をまとめた解説が大変好評でした。参加者からは、「はじめての受験なので、実際の問題形式や解くコツを教えていただき、勉強になりました」「ただ英語の勉強をしているだけでは得られないテクニックを得られて、参加して良かったと思う」「1 時間という短い時間にしっかり復習ができました」「前日にやるべきことだけでなく、やらない方が良いことも（まさかセミナー後にやろうと思っていたことが含まれていたので）聞けて良かったです」「とてもためになった。前日に改めて聞けて良かった」等、多くの感想が寄せられ、大変嬉しく思います。

(3)「バイリンガルカフェ」を開催：2021 年 8 月 10 日(火)～8 月 12 日(木)

英語学習アドバイザーを相手に基本は英語、分からない時は日本語も使える英会話カフェを 3 日間オンラインで開催しました。期待していた通り、初参加の学生も気楽に参加できていたようです！（もちろん English Café、English Support の常連学生も来てくれました）2021 年度後期も English Café、English Support は開催予定ですので、自信を持って、参加していただけたら嬉しいです。

(4) 「英語 Speaking & Writing セミナー」を開催：2021 年 10 月 20 日(水)、10 月 27 日(水)

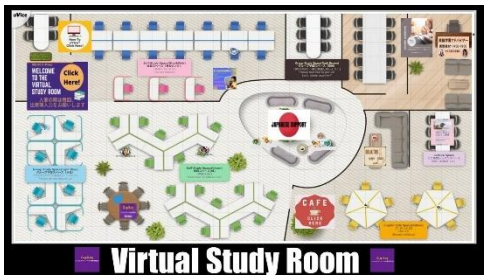
同年 11 月に開催される学内 TOEIC(R) Speaking & Writing Test にも使える！と題した英語セミナーを開催し、計約 20 名がオンラインにて参加しました。英語 Speaking セミナーでは、正しい英語の発音やイントネーションの方法を学び、英語 Writing セミナーでは、英文ビジネスメールで役立つフレーズ等を学びました。受講者からは、「実際の英会話に活用していきたい」「海外の人とオフィシャルなやりとりをする際に使いたいです」「研究の関係で外国の方と実際にやりとりする機会があります。今日学んだことを早速使って行こうと思います」といった声が聞かれました。

(5) 高校生向け山梨大学入学前教育「TOEIC 学習スタートダッシュ」を開催：2022 年 2 月 1 日、2 日、3 月 3 日、4 日

本学アドミッションセンターと共同で、入学前の高校生向けに TOEIC®L&R テストに関する入門編のオンラインセミナーを 4 日間に渡り実施し、約 40 名の高校生が参加しました。真面目な学生ばかりで、メモを取りながらしっかりと参加してくれた様子がとても印象的でした。

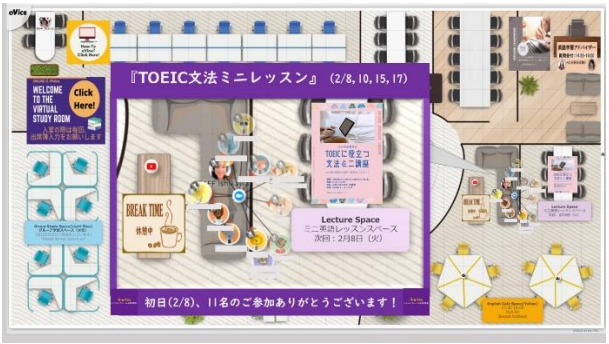
(6) G-フィロス「バーチャル自習室」を開催：2022 年 1 月 24 日(月)～3 月 31 日(木)

コロナ禍の春休み期間中、自宅で過ごすことが多い中、24 時間いつでも入退室可能なオンライン自習室を開室しました。プラットフォーム oVice（オヴィス）を利用し、山梨大学・山梨県立大学の学生・教職員の皆さんが交流を楽しみながら共創学習できる空間として、海外の留学生を含むさまざまな方が活用してくれました。基本的には、英語・日本語・諸外国語の学習利用を主軸としていますが、カメラを OFF にしてアバター同士で会話や情報共有も可能なため、実際の G-フィロス(B1-221 室)や English Café、English Support には行きづらいという学生たちも気軽に入室し様子を見て G-フィロスの取り組みを理解してもらえることができました。本バーチャル自習室内は、春休み中の English Café（英会話）やミニイベント、打合せ等にも利用し、アバターを通しての繋がりを楽しむことができました。



(7)「TOEIC に役立つ文法ミニ講座」を開催：2022 年 2 月 8 日、10 日、15 日、17 日

2022 年 2 月に計 4 回にわたり、TOEIC テストに絶対頻出の品詞・動詞を扱うミニ講座を実施しました。学生や教職員が毎回 5〜10 名程度バーチャル自習室内にて参加し、英語学習アドバイザーによる初心者向けの文法解説が行われました。参加者からは「参加しやすかった」「次の TOEIC 受験時に役立てたい」などの声があがりました。今後も気軽に受講できる TOEIC 対策講座を実施していきたいと思います。



(8)「英語スピーキングミニレッスン」を開催：2022 年 3 月 9 日(水)、16 日(水)

2022 年 3 月に 2 回にわたり英語スピーキングミニレッスンをバーチャル自習室内にて実施しました。『オンラインで使える英語表現』と『ネイティブがよく使う！便利なイディオム＆スラング』の内容でそれぞれ開催し、山梨大学と山梨県立大学の学生が各回 10 名ほど、バーチャル自習室内にて参加してくれました。参加者からは「海外の友人とオンラインで話す際に習ったフレーズを早速使います」「Youtube や SNS 投稿時などに実際に使いたい」などの声があがりました。今後も気軽に受講できるセミナーやミニ講座等を実施していきたいと思います。

Ⅴ．　地域貢献

国際交流センターは、キャンパス内だけではなく、地域全体のグローバル化にも貢献したいと考えています。地元教育機関や自治体など、さまざまな団体のイベントや国際交流事業に留学生を派遣することは、地域貢献だけではなく、留学生に異文化交流の機会を与えることにもつながっています。

留学生の地域との交流

留学生にとって地域との交流は、自らの暮らす地域をよく知り親しむことで安心して暮らすことができるだけではなく、卒業後も山梨に留まり定住するという選択肢を広げるきっかけともなります。例年、以下のような留学生と地域の方々との交流や、県や自治体の実施するイベントへの留学生の参加についてご報告していますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の行事はありませんでした。

・信玄公祭り甲州軍団出陣「三条夫人隊」への参加
・地域住民の方々と本学留学生との交流を目的とした「こども と おとな と りゅうがくせい の まつり（こおりゅうまつり）」
・留学生と地域の交流活動を通じて互いの信頼関係を築くとともに、食を通して異文化への理解を深めることを目的に毎年開催されている「餅つき大会」

小・中・高等学校への留学生派遣

山梨県内の小・中・高等学校より留学生の派遣依頼があった際、参加を希望する留学生を募集し派遣しています。派遣の要望は主に、国際交流・異文化交流のための授業や行事であることが多く、地域の教育機関の国際交流活動に貢献すると同時に、留学生の異文化体験や日本の教育機関見学の機会にもなっています。今年度の活動は新型コロナウイルス感染症の影響により、ありませんでした。

VI.　国際交流関連データ

留学生在籍状況をはじめ、国際交流に関連する各種データをまとめて報告いたします。

国際交流センターと国際部の行事(2021 年度)

月	日	活　動　内　容
4	2	留学生ガイダンス
	6	交換留学生履修ガイダンス
	12～16	グローバル共創学習室 G-フィロス＆英語学習サポート説明会（オンライン）＆留学ガイダンス（オンライン）
	13	前期イングリッシュカフェ（12:30-13:00)開始（オンライン）　7 月 21 日終了
	21	スタートダッシュ TOEIC セミナー（オンライン）実施
	24	学内 TOEIC® L&R IP テスト実施
	26	国際交流会館オリエンテーション
5	6	前期イングリッシュサポート（16:30-19:00）開始（オンライン）
	10	前期 TOEIC 講座(オンライン)開始　7 月 1 日終了
	15	学内 TOEFL ITP®テスト実施
	19・21	夏季オンライン海外研修　説明会（オンライン）
	21	ビジネスマナー講座１（就職促進プログラム）
	26	チューター説明会
	28	サポーター説明会
6	16	ビジネスマナー講座２（就職促進プログラム）
	22	夏季オンライン海外研修　相談会（オンライン）
	24	第一回 外国人留学生雇用促進セミナー
7	2	超直前！TOEIC®L&R 対策セミナー(オンライン)実施
	3	学内 TOEIC® L&R IP テスト実施
	20	夏季オンライン海外研修　事前授業（ハイブリット）
	27	JCL 外国語学院オンライン進学説明会
8	4	Mongolian Café（オンライン）実施
	4	山梨大学オンライン進学説明会　学部入学希望者向け
	5～9/30	留学生インターンシップ（就職促進プログラム）
	6	JCLI 日本語学校オンライン進学説明会
	2～20	レスター大学英語・文化オンライン研修　/　レスター大学医学系学生向けオンライン研修
	10-12	バイリンガルカフェ（オンライン）実施
	24～9/17	ノーザン・アイオワ大学英語・文化オンライン研修
9	5	VYSA SCHOOL FAIR 2021（ベトナム留学フェア）
	10	日本留学フェア（サブサハラ・アフリカ）
	15	第二回 外国人留学生雇用促進セミナー
	17	日本語プレスメントテスト
	24	交換留学生履修ガイダンス
	28～30	留学生とバーチャルトラベル（タイ・香港・マダガスカル）（オンライン）実施
10	1	Hungary Café（オンライン）実施

	4	後期イングリッシュカフェ（12:20-13:00・オンライン)イングリッシュサポート（16:30-19:00･オンライン→対面→オンライン）開始　1 月 21 日終了
	11	後期 TOEIC 講座(オンライン)開始　12 月 9 日終了
	15	ユニタス日本語学校進学説明会
	20	英語スピーキングセミナー（オンライン）実施
	27	英語ライティングセミナー（オンライン）実施
	30	学内 TOEIC® L&R IP テスト実施
11	5	留学生インターンシップ報告会＆ビジネス日本語コンテスト
	8	チューター説明会
	13～18	学内 TOEIC® S&W IP テスト(オンライン)実施
	16	サポーター説明会
	19	チューター交流会
12	9	企業文化セミナー１（就職促進プログラム）
	14	Holiday Party（対面）実施
	14	留学生のための防災教室（甲府市役所）
	16	企業文化セミナー２（就職促進プログラム）
	18	学内 TOEIC® L&R IP テスト実施
	21	後期入学留学生向け生活ガイダンス
	21	学長主催の懇談会
	24	春季オンライン海外研修　説明会（オンライン）
1	5	春季オンライン海外研修　説明会
	6～7・11	春季オンライン海外研修・留学相談会＠甲府キャンパス図書館
	24	バーチャル自習室（オンライン）開始　（3 月 31 日まで 24 時間オープン）
2	1･2	高校生 TOEIC セミナー(オンライン)実施　※コンピュータ理工学科
	5	学内 TOEIC® L&R IP テスト実施
	7～25	レスター大学英語・文化オンライン研修
	8-17	TOEIC に役立つ文法ミニ講座（オンライン）実施
	14	春季オンライン海外研修　事前授業（オンライン）
	22～28	杭州電子科技大学中国語・文化オンライン研修
	22～3/17	ブリティッシュ・コロンビア大学イングリッシュ・ランゲージ・インスティテュート オンライン英語・文化研修
3	3･4	高校生 TOEIC セミナー(オンライン)実施　※応用化学科
	9･16	英語スピーキングミニレッスン（オンライン）実施
	17	A3I キックオフシンポジウム（文部科学省　世界展開力強化事業）
	25	ハンガリー交流会（オンライン）実施
	29	留学生サポーター説明会（オンライン）

2021 年度留学生在籍状況(国別)　基準日:5 月 1 日

No.	国・地域	大学院生	学部生	研究生	特別聴講学生等	合計
1	中華人民共和国 People's Republic of China	89	41	25	7	162
2	マレーシア Malaysia	5	17			22
3	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	11	5			16
4	バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh	8				8
5	タイ王国 Kingdom of Thailand	4				4
6	ネパール連邦民主共和国 Federal Democratic Republic of Nepal	4				4
7	大韓民国 Republic of Korea	1	3			4
8	インドネシア共和国 Republic of Indonesia	3				3
9	ガーナ共和国 Republic of Ghana	2				2
10	スリランカ民主社会主義共和国 Democratic Socialist Republic of Sri Lanka	2				2
11	台湾 Taiwan		2			2
12	モンゴル国 Mongolia		2			2
13	英国 United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland				2	2
14	パキスタン・イスラム共和国 Islamic Republic of Pakistan	1				1
15	ケニア共和国 Republic of Kenya	1				1
16	ナミビア共和国 Republic of Namibia	1				1
17	マダガスカル共和国 Republic of Madagascar	1				1
18	パナマ共和国 Republic of Panama			1		1
19	ドイツ連邦共和国 Federal Republic of Germany				1	1
	計					239

受入留学生の推移(過去 4 年間)　基準日:5 月 1 日

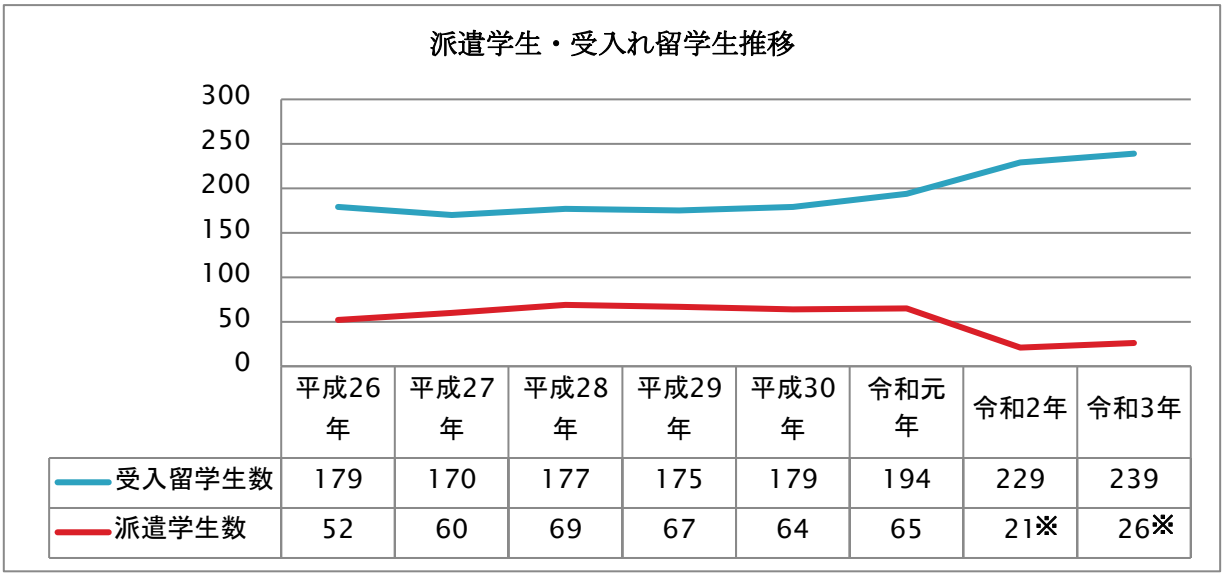
	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
国費留学生	0	18	0	18	0	17	0	16
政府派遣留学生	22	0	16	0	12	0	11	0
私費留学生	58	81	71	89	76	124	90	122
合計	179		194		229		239	

派遣留学生の推移(過去 4 年間)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
交換留学	5	4	0	0
夏季・春季海外研修	59	61	21（オンライン）	26（オンライン）
(海外インターンシップ参加者)	（ 34 ）	28	0	0
合計	64	65	21（オンライン）	26（オンライン）

※令和 2 年度･3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため海外派遣実施不可。オンラインにて研修を実施。

＜図:派遣学生･受け入れ留学生推移＞



※新型コロナウイルス感染症の影響のため海外派遣実施不可。オンラインにて研修を実施。

派遣プログラム

プログラム名	留学先	実地時期	期間	対象学部	備考
夏季オンライン海外研修	英国 University of Leicester	2021 年 8 月 2 日（月）～8 月 20 日（金）	3 週間	全学 医学部	English Language Teaching Unit（ELTU）が実施するオンラインプログラムに参加します。このプログラムでは、英語力とコミュニケーションスキルの向上を目的とした学習のほか、英国文化紹介やソーシャルイベント（現地学生との交流）が含まれています。
	米国 University of Northern Iowa	2021 年 8 月 24 日（火）～9 月 17（金）	5～6 週間	全学	ノーザン・アイオワ大学の The Culture and Intensive English Program（CIEP）における英語オンラインプログラムに参加します。このプログラムでは、リスニング・スピーキング・リーディング力を磨くことが出来ます。
春季オンライン海外研修	カナダ English Langage Institute, University of British Columbia	2022 年 2 月 22 日（火）～3 月 17 日（木）	4 週間	全学	Global Citizenship through English（GCE）Online Program にて、近年の国際的課題を、英語スピーキング力を養いながら学びます。

	英国 University of Leicester	2021 年 2 月 8 日（月）～2 月 26 日（金）	3 週間	全学	English Language Teaching Unit（ELTU）が実施するオンラインプログラムに参加します。このプログラムでは、英語力とコミュニケーションスキルの向上を目的とした学習のほか、英国文化紹介やソーシャルイベント（現地学生との交流）が含まれています。
	中国 Hangzhou Danzi University	2022 年 2 月 22 日（火）～2 月 28 日（月）	2 週間	全学	中国浙江省杭州市にある杭州電子科技大学が実施する 7 日間の無料オンライン中国語・中国文化研修プログラムに参加します。 中国語の学習経験がない学生も参加可能としており、各国からの参加学生との交流や文化体験などのイベントを通して、異文化コミュニケーションを体得します。

奨学金受給者数（私費外国人留学生）

	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
学習奨励費	3	8	5	24	5	12	0	10
学習奨励費（就職支援特別枠）					8	11	11	10
学習奨励費（コロナ支援）					6	17	6	8
（財）ロータリー米山記念奨学会	1	2	1	2	1	1	2	0
朝鮮奨学会	2	3		1	1	1	1	1
（財）共立国際奨学財団							0	0
日揮・実吉奨学会	1			1	1		0	1
山梨大学大学院博士課程私費外国人留学生支援金				5		10	0	15
甲府市ふるさと応援補助金による大学院博士課程私費外国人留学生支援金				8		8	0	0

新規協定締結校（2021 年度）

	国名・地域名 Country/Region	大学等名 Institution	締結年月日 Agreement date
大学間	台湾 Taiwan	国立陽明交通大学 National Yang Ming Chiao Tung University	2021.6.7
	韓国 Korea	釜慶大学校 Pukyong National University	2022.3.15

JSPS 国際交流事業申請状況

	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
外国人特別研究員(一般)	7	0	13	1	12	0	9	0
外国人特別研究員（欧米短期）	1	0					1	1
外国人招へい研究者(長期)	2	0						
外国人招へい研究者(短期)	1	0						
研究拠点形成事業　A								
国際共同研究事業			2	1				
二国間交流事業（９月）	6	1	5	0	3	0	2	0
二国間交流事業（２月）								
論文博士号取得希望者支援								

JSPS 研究者養成事業申請状況

	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
海外特別研究員	1	0			1	0		
海外特別研究員（ＲＲＡ）								
若手研究者海外挑戦			3	0	1	0		
日本学術振興会賞			1	0				
日本学術振興会育志賞			2	0				

その他国際交流事業申請状況

	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
さくらサイエンス	2	2	2	2	0	0	0	0
JASSO（短期派遣）	1	1	1	1	1	1	1	1
JASSO（短期受入）	1	0	2	0	3	1	2	2
JASSO（双方向）	1	0	2	0	1	1	0	0